

自己紹介： 森口祐一（もりぐち・ゆういち）

現職：国立環境研究所・理事 前職：東京大学工学系研究科教授

京都市生まれ、京都府立鴨沂高校卒（ルーツは「八重の桜」の日本最古の女学校）

京都大学工学部衛生工学科卒業

専門：環境システム学、都市環境工学

小学生の時に将来なりたかったもの：天文学者



原発事故に関連する主な公職、活動

- ・ 「廃炉の先研究会」副代表、1F地域塾副塾頭
- ・ 早稲田大学ふくしま広野未来創造リサーチセンター・招聘研究員
- ・ 福島県環境創造センター（@三春町）環境動態部門長（非常勤, 2016.7.1～2019.3.31）
- ・ 環境省**環境回復**検討会委員（主に除染に関する方針の検討の場）
- ・ 原子力規制委員会**帰還に向けた安全・安心対策**に関する検討チーム外部専門家
- ・ 厚生労働省**水道水**における放射性物質対策検討会委員（事故後初期）
- ・ 国土交通省**下水道**における放射性物質対策に関する検討会委員（事故後初期）
- ・ 日本学術会議(22期)**東日本大震災復興支援委員会放射能対策**分科会委員
- ・ 日本学術会議連携会員(23期～), 原子力安全分科会委員(24期), 幹事(25期)
原発事故による環境汚染調査に関する検討小委員会委員長(24期～)
- ・ 環境研究総合推進費「原発事故により放出された大気中微粒子等のばく露評価とリスク評価のための学際研究」(2015～2017年度)研究代表者
- ・ UNSCEAR2020レポート 大気拡散専門家グループメンバー

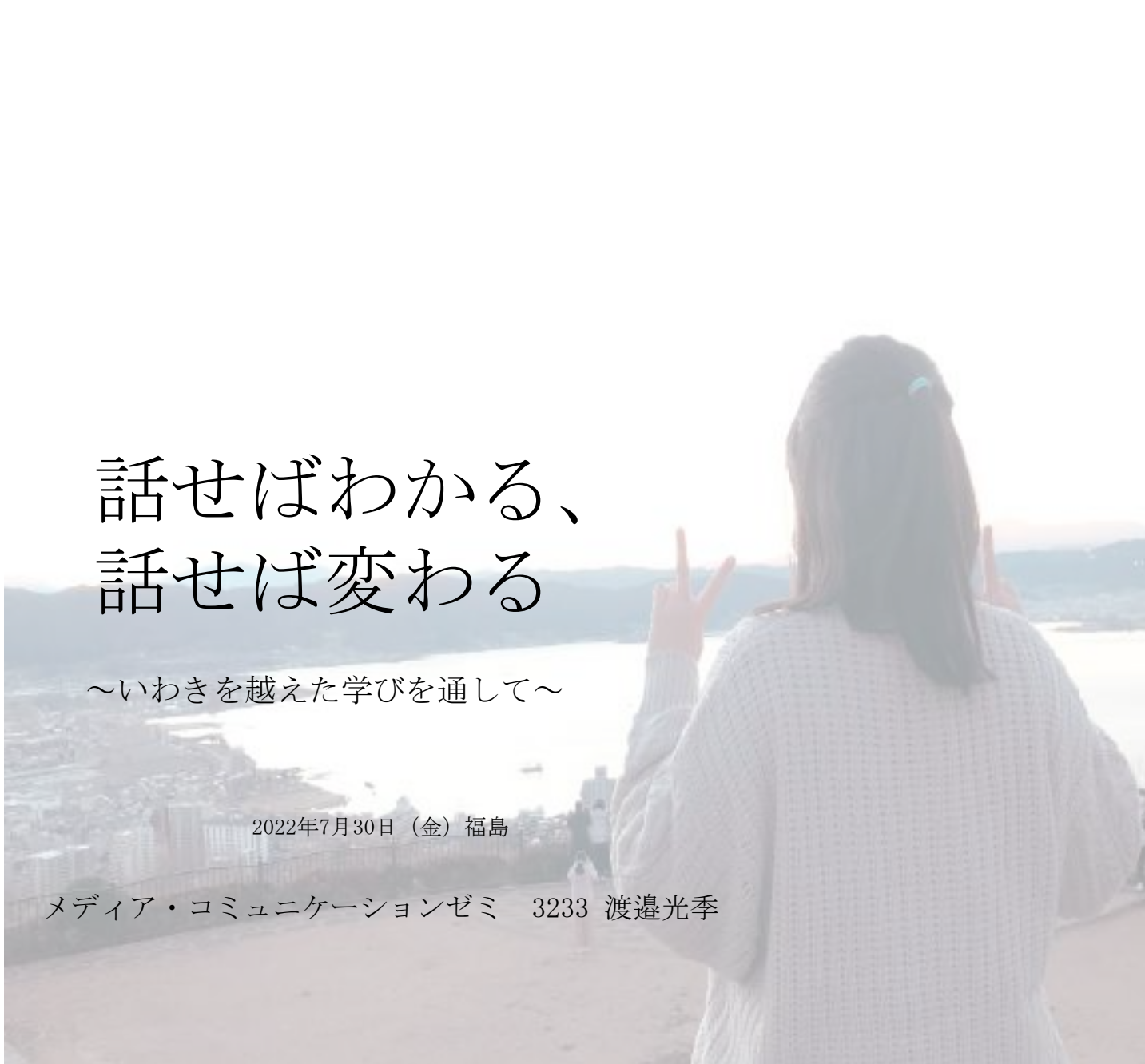


話せばわかる、 話せば変わる

～いわきを越えた学びを通して～

2022年7月30日（金）福島

メディア・コミュニケーションゼミ 3233 渡邊光季



ワタナベ

渡邊

ミツキ

光季

福島県立ふたば未来学園高等学校 3 年
メディア・コミュニケーションゼミ所属

18 歳



2004年 05月28日 いわき市生まれ 保育園入園後
二ツ沼公園・エネルギー館に遊びに行く

2011年 03月11日 6歳で東日本大震災を経験
3月の下旬まで茨城・千葉・埼玉に避難
→いわき市に戻る

04月 小学校に入学
小学校入学後 1 年間は集団登校自粛
弁当or簡易給食
外で遊べない
線量計を常に携帯

2020年 03月 中学校卒業

2020年 04月 学 ふたば未来学園高校に入

05月 社会起業部入部

富岡町 東京電力廃炉資料館



第5回福島第一廃炉国際フォーラム

2021年10月31日



福島の偏見差別をなくすために
福島の魅力を県外や世界に発信



福島県内の震災や復興に関する
意識・知識の壁をなくすには？

地域・社会の「現状」

県外・海外への風評払拭に
目が行きがちで

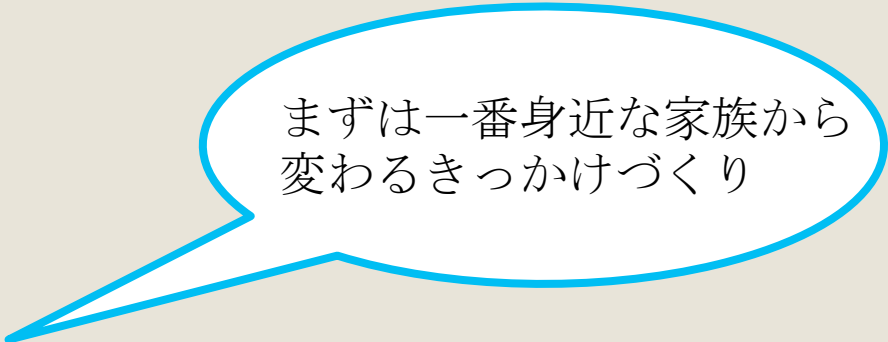
福島県内でも情報や教育
十分ではないのでは？

地域社会の「あるべき姿」

県外・海外へのPRはもちろん

双葉郡外の福島県民への
情報発信、教育の確立

社会問題に触れる機会をつくる



まずは一番身近な家族から
変わるきっかけづくり

課題解決のためのアクション

アクションやってみた。

ひたすら家族に部活動、探究の話をする

廃炉のイベントに参加するんだ～

中間貯蔵施設の人に話聞いたんだ～

自分の震災の経験を話すんだ～
震災の時どうだった？

県外の人に福島PRするんだ～

地域の人とたくさん話してきたよ！



家族に変化が？！

- ・ 回覧板で回ってくる
廃炉の情報のチラシを残すようになった
- ・ 原発、双葉郡のテレビ番組が放送されると
録画してくれる
- ・ マイナスな言葉が出てこなくなった

話すことによって新たな気づきを得る

福島将来なんて自分には関係ない
とりあえず県外に出よう



双葉郡や福島が復興していく未来を
近くで見たい



福島復興に自ら参加したい
地域づくりや教育に
興味がわいた



そのために・・・

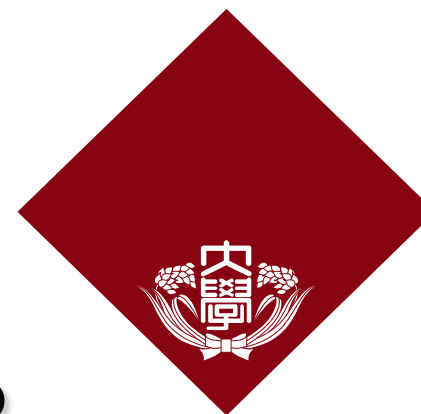
大学に進学
地域づくりや社会教育について学ぶ

福島県外や海外に行き
外から見る福島を知る





第10回ふくしま学(楽)会 第1部 1F廃炉の先を考える



1F廃炉の先研究会の活動について

崎田裕子

1F廃炉の先研究会副代表

(早稲田大学ふくしま広野未来創造リサーチセンター)



2022年7月31日

2022.7.31 1F廃炉の先研究会





崎田裕子

ジャーナリスト・環境カウンセラー

立教大学社会学部卒 雑誌編集者を経てフリーに。

環境・エネルギー分野を中心に

持続可能な地域・社会づくりに取り組む。

NPO法人・持続可能な社会をつくる元気ネット・前理事長

1F廃炉の先研究会・副代表



「電気のごみ～地層処分最前線
を学ぶ たび」 NPO共著 2010

福島的环境再生、廃炉と復興に向けて
対話を文化に～みんなでつくる未来共創の場

2011～2018
「環境回復」
勉強会

2012～
「環境再生プラザ、
放射線リスク相談員
支援センター」
運営委員(環境省)

2016～2020
「ALPS処理水
小委員会」
委員(資源エネルギー庁)

1F廃炉の先研究会「中間報告」(2020年5月6日)

目的明確化と提案の方向性

1. **1F廃炉の技術的側面と社会的側面を統合した社会的議論の形成をめざす**
2. 多様な「廃炉の先のオプション」を示し、幅広い地域社会の住民や専門家、行政の**1F廃炉のあり方に関する討議プロセス**を立上げる
3. 1F廃炉の先とは、40年後100年後の絵を描くだけでなく中間ステートや廃炉の先へ至る**地域内外の多様な人々が関わる廃炉プロセスそのものを地域資源化する仕組みづくり**を提案する

1F廃炉プロセスの地域資産化めざし、 2019年「1F廃炉の先研究会」設置・2020年「3者会合」開催

2019年7月29日：1F廃炉の先研究会の設置

2020年5月 6日：「中間報告」を作成。 報告の提案内容の実装めざす



2020年5月17日：福島・地域対話会合（地域社会+研究会）の開催

8月28日：東京電力との会合（東京電力+研究会）

10月29日：3者会合（第1回）（地域社会+東電・国+研究会）

11月26日：3者会合（第2回）（ 同 ）

12月17日：3者会合（第3回）（ 同 ）



2021年1月12日：3者会合をベースに「1F廃炉の先を考える
地域プラットフォーム」立ち上げの方向性を共有し、
2021年はじっくり学びを深める方向に。

廃炉プロセスの地域資源化と復興の好循環へ



2020年 地域対話会合(3者会合)の成果と 方向性

○「1F廃炉プロセスの地域資源化に向けたプラットフォーム設立」 を地域社会メンバー・東京電力・研究会が共にめざすことを共有

地域資源化のプラットフォームの具体像には、多様な思いがある。しかし
地域社会と東電・国の熟議プロセスを経て、共創への基本的意欲を確認。



廃炉プロセス全体と復興の好循環を創造する 地域社会と東電・国をつなぐ参加型・熟議型の場づくりへ

- 廃炉と福島を多様な視点で議論し、考え、行動できる場に
- 地元住民の方々だけでなく、この地域の将来を思う人が参加できる場に
- 双葉地方自治体、環境回復・廃炉・復興の関連組織等とつながれる場に
- 若い世代と共につくるために、教育の力とも連携する場に
- 持続可能な地域の未来に向けて、交流人口拡大につながる場に……

2021年「1F廃炉の先研究会」は学びを広げ・深める時期に

2021年1月26日：廃炉の地域資源化めざすプラットフォームの検討始める

2月 4日： 第11回研究会で、3者会合を継続発展させて議論継続し
将来の選択肢等研究を深める方向性を共有



3月6日：原子力政策・福島復興シンポ「東日本大震災と福島原発
事故から10年～1F廃炉の将来像とデブリ取り出しを考える

3月9日： 第12回研究会（1F廃炉の将来の選択肢等研究計画の検討

3月30日： 3者会合（第5回）（地域社会+東電・国+研究会）

6月19日： シンポ「原子力規制委『中間とりまとめ』から視えてきたもの」

9月24日： 第16回研究会「Chuck NeginさんTMI-2講演会」

11月14日： シンポ「広島の世界遺産登録と1F廃炉の将来を考える」

12月16日： 第17回研究会「Helen BelencanさんUSAの廃炉と市民参加」

2022年1月15日： 第2回シンポ「原子力規制委「事故調査分析と1F廃炉政策」

3月2日： 原子力政策・福島復興シンポ「地層処分政策と福島復興」

2021年の多様な学びから得たもの 将来への多様な視点

「1F～2Fへの産・知・和の集積」 提案



井上研究員資料より

遠藤研究員の発言を受け、勉強会
「広島原爆ドーム世界遺産登録と
1F廃炉の将来を考える」実施。
写真は原爆ドームHPより

「2050年浜通りを
世界文化遺産に」提案



2022.7.31 IF廃炉の先研究会

2021年の学びから得たもの 廃炉事業における市民参加の意義

アメリカの廃炉事業における市民参加の役割

第16回研究会Chuck Negin氏 「TMI-2事故処理と地域社会・市民参加」
1979年米国スリーアイランド原発2号機で放射性物質漏れ事故

(松岡俊二研究会代表資料より)

- Citizen Advisory Panel: 米国原子力規制委員会(NRC)が連邦法(FACA)に基づき設置した、独立した市民パネル
- 1980～1993 安定貯蔵への到達まで13年間に、78回の会合と、近隣地域でのPublic Meetingを開催
- 市民パネル・メンバー: 12名。地方自治体首長3人、科学者3人、州行政3人(専門家や市民に変更)、市民3人。事務局NRC職員



- 内容は事故処理事業の安全性、1986～健康問題も追加。相互学習、多様な将来像、市民の多様性等で社会の信頼醸成
- 市民・NRC・事業者の対話を促進し、事故処理方法等に関しても複数の選択肢の考慮を要求するなど、廃炉への市民参加の場に

第10回 原子力政策・福島復興シンポジウム「東日本大震災と福島原発事故から10年
～1F廃炉の将来像と『デブリ取り出し』を考える～
パネルの進行役を終えて～「廃炉と復興」を進めるには

デブリ取り出しの難しさや、将来の多様な姿の可能性を、
皆が率直に対話する場が欠かせない、
地域住民、次世代、関係者含め、主体的に係る意識・意欲の醸成



地域の将来を見据え、共に対話の場を進め地域資源化をめざすには
廃炉技術の分野と、
廃炉と共に生きる地域の仕組みと、
地域経済の発展につながる産業興し
3つの視点のベストミックスが重要



そこに「安全・安心」「地域・関係者の信頼の醸成」と
次世代も巻き込む知の集積が欠かせない

廃炉と復興の好循環に向けた地域対話プロセス抄出へ

2022年「1F廃炉の先研究会」は新たな学びあいの場を創設

早稲田大学ふくしま広野未来創造リサーチセンター「1F 廃炉の先研究会」
ふたば未来学園中学校・高等学校



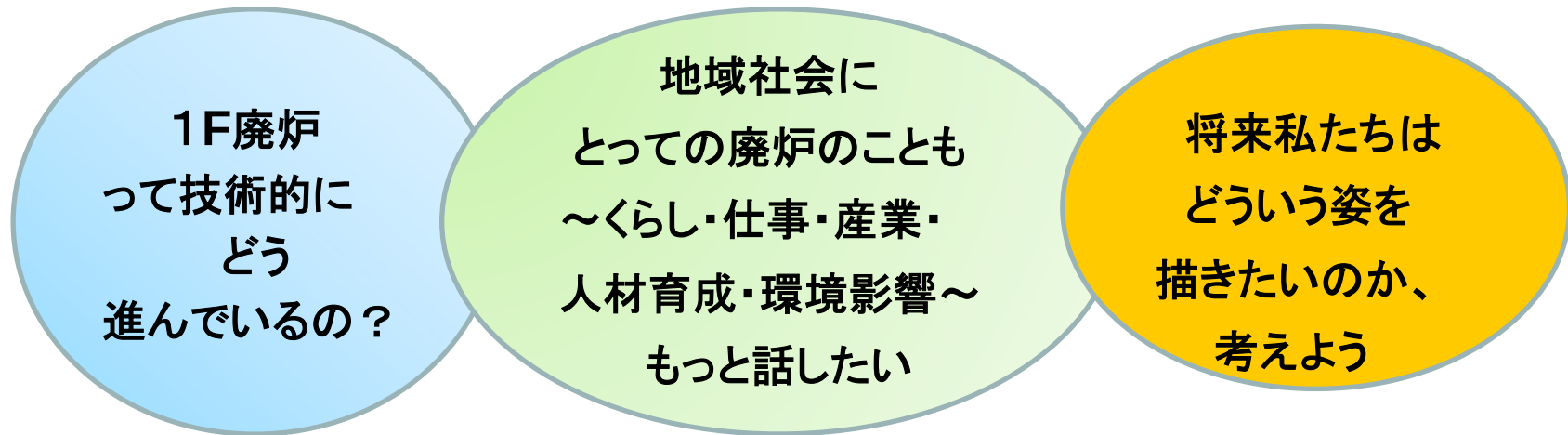
～1F 地域塾～

世代を超えて、地域を超えて、分野を超えて
1F 廃炉の先を考える、語りあい、学びあいの場

「塾」とは学習塾のような塾では ありません。
1F 地域塾で共に考える 1F廃炉の将来像は、
「答えがある問い」でなく、「答えがない問い」です。

明治維新で活躍した多くの変革者を育成した幕末
の私塾のように、同志平等の気分でみなが卓を囲
んで考え、議論し、実践へつなげたいと考えてい
ます。

日本の近代が大きな劇場だったとすれば、幕末の
塾は俳優の稽古場でした。
「3.11」を克服した新しい歴史を作るため、未来を担
う人びとの稽古場になることを願っています。



1F地域塾 2022年7月16日スタート

私たちは 青い空に どんな絵を描くのか！

今こそ話そう・学ぼう

世代を超えて、地域を超えて、分野を超えて



廃炉と復興に、この声をどう活かすのか！

地域も事業者も国も、今を生きる私たちひとり一人が
「自分事」として考える覚悟が問われている。

1F廃炉の先と地域社会：カナダの経験から考える

第10回ふくしま学（楽）会
第1部 1F 廃炉の先を考える
2022年7月31日

長崎晋也
McMaster University

自己紹介

1988年 東京大学大学院工学系研究科原子力工学専攻修士課程修了
1988年 四国電力（株）
1991年 東京大学工学部原子力工学科助手、講師、大学院工学系研究科助教授、新領域創成科学研究科助教授を経て
2005年 東京大学大学院工学系研究科原子力専攻教授
2012年 Department of Engineering Physics, McMaster University教授
この間 Forschungszentrum Karlsruhe、Forschungszentrum Rossendorf客員研究員、UC Berkeley客員教授

お断り

★カナダでの経験だけではなく、日本での経験にも基づいています。

★幼稚園に入る前から“**Difference is Great**”（人と違うことは素晴らしい）と子供を育てる文化と「**出る杭は打たれる**」という**同調圧**の強い文化の違いがあること、カナダは言った者勝ち、ダメ元でもとにかく要求するところがあり、何も言わないのは遠慮や思い図ってではなく、100%満足しているとされるだけなど等、日加の違いは、議論のきっかけとするため、この資料では考慮していません。

★福島県外のある特定の地域を意図したかのような表現が出てきますが、福島県外であることを明確にしたいため、他意はありません。

News
Back to News

ソージーン・オジブウェイ族がOPGのDGR計画に拒否権
Saugeen Ojibway Nation votes against OPG's proposed DGR

By: Ontario Power Generation communications
January 31, 2020

Share 118 Tweet

ONTARIO POWER GENERATION

The Saugeen Ojibway Nation (SON) has voted "No" to Ontario Power Generation (OPG)'s proposed Deep Geologic Repository (DGR) for low- and intermediate-level nuclear waste, at the Bruce Nuclear site in the Municipality of Kincardine.

The vote was held Friday, and the results were: **1,038 voted No; 170 voted Yes** and there were four spoiled ballots.

In a press release, issued late Friday by OPG, the company states it remains committed to seeking safe and permanent disposal of nuclear waste.

"OPG respects the decision of SON members," said president Ken Hartwick. "We will now move forward to develop an alternate solution."

The company agreed in **2013** that it would not build the DGR at the Bruce site, without the support of SON.

"OPG will explore other options and will engage with key stakeholders to develop an alternate site-selection process," said Hartwick said. Any new process would include engagement with indigenous people as well as interested municipalities.

"Nuclear energy – as a non-emitting source of electricity – is a vital tool in fighting climate change," said Hartwick said. "To enjoy the benefits of this low-carbon, low-cost and reliable source of energy with peace of mind, we must manage the waste responsibly. Permanent and safe disposal is the right thing to do for future generations."

"Over the years, OPG and SON have been building a relationship based on mutual respect, collaboration and trust," said Lise Morton, vice-president of OPG's nuclear waste management division. "We look forward to continuing this relationship."

As OPG explores alternative solutions for permanent disposal, "a priority is our continuing efforts in waste minimization," Morton said. This includes minimizing waste production at source, innovations in waste processing to reduce the volume, and recycling of clean materials.

<https://kincardinerecord.com/story.php?id=8616>

え！
公式には2002年からプロセスは
始まっていたはずですね？

SONチーフの主張と全く違いますが。。

<https://toronto.ctvnews.ca/13-year-old-ontario-journalist-scoring-big-interviews-during-provincial-election-campaign-1.5925140>

OPGの失敗から見えること

プロジェクトの一番最初（問題点・課題の同定そのもの）から、**全てのステークホルダー**が参加して、一緒に議論し、合意するというプロセスを取っていますか？
社会的強者（国や県はもちろん業界もこっちは、**社会的弱者を「人」として尊敬**して対応していますか？

一方で



BC州でのパイプライン建設反対運動
カナダ全国の鉄道物流が完全にストップ
でも、一般市民からはこの行為そのものへの批判は少なかった。
（もっとも、鉄道踏切への座り込みそのものは違法ではあるのですが）

<https://www.cnn.com/2020/02/14/americas/canada-rail-disruptions-pipeline-protests/index.html>

自分達が正しいと思うことは堂々と社会に向かって主張しよう（平和的、遵法内で）。



Wyatt Sharpe君 **13歳**

YouTubeやFBなどを後で
見てください。

総選挙では**高校生**が声を。
日本の若者は覇気がない？

6月（約100日経過）に入った頃からのカナダ



<https://www.cbc.ca/news/editorsblog/editor-s-blog-russia-ukraine-journalism-1.6382891>

当初の高揚感や技術革新への驚きから
「退屈さ」「疲れ」「倦怠感」へ。

国民の関心は

QEII戴冠70周年・英連邦に留まるか
ガソリンなどの値上がり・金利上昇
空港の長蛇の列・遅延・キャンセル

カナダに限った話ではないです。

国内与党への不満として（仏与党大敗、バイデン支持率低迷など：自分の生活に近いところに人の目は行く）。
世界の3分の2（中印やアフリカの大部分など）は経済制裁に参加していません（行動の基準は他人の正義の基準ではない）。
「ゼレンスキー疲れ」「ウクライナ疲れ」って、責任はウクライナ側にあるような言い方に聞こえませんか？



<https://www.tserkva.ca/>

カナダはウクライナからの移民
先では世界第3位のはず。
でも今はもう何の声も聞こえて
来ません。

松岡先生
ふくしま
福島
フクシマ

“水俣”病という名前を
変更しろという水俣からの声。
（昔あったそうです）
原田正純先生らは変更到大反対。

映画「コリーニ事件」
ドイツでもナチス犯罪という
忘れたものに蓋をしたことの
告発です。人の性（さが）？

多くの国民の頭の片隅に、
忘れないものとして 位置付け
るには、どうしたら？
でも、これって、できるの？

燃料デブリ取り出しの選択肢

Mac学生や周りの日本人：当然完全に全部取り出すんでしょ。でも電気料金が高くなるとは聞いてないですよ（聞いた人、ほぼ全員）。
何人かの原子力研究者：お金と時間に制約がなければ数10年（10～20年ではなく、でも70～80年でもない）後には可能かなあ（例）。
「世界の叡智を結集して」にはなってないですよ（既得権益の範囲内でやっていることなら、福島国際研究教育機構なんか、お金の臭いがする間だけ、よく見た顔（一般には二流・三流以下）が集まってくるんだろうなあ。「金の切れ目が縁の切れ目」：我々経験済じゃないですか。）。

廃棄物管理・処分の考え方

プランAに関して、国・県・東電などの方々は、何をされているのでしょうか（質問です）？ 国・県は東電を叱ってれば良いわけじゃない。
少なくとも国際的には、放射性廃棄物はもちろん、他国の一般・産業廃棄物を受け入れて処分しました、という話は聞かないですよ。
寿都町・神恵内村の住民の方々と同等か、それ以上の国民のコンセンサスが必要かもしれませんね。
ところでプランBやCはあるのでしょうか（質問です）？

事故遺構としての1F保全の可能性（世界遺産登録も含め） & 1Fの地域資源としての活用策

原状回復じゃなかったでしたっけ？ 無理筋（誰の意見？）になってきている空気があって、それでの代替案というわけではないんですよ？
デブリや廃棄物管理・処分なども含めて、1Fの将来にいろいろな意見を述べて、広く、深く、そして自由に議論する環境になっているのでしょうか（質問です）？ もう石棺説は言い出せないと聞きましたが。「言い出せない」は自由な議論の場ではないことを意味していますよね。そうすると声の大きい者勝ち？ これらの循環は原子力にますます次世代を来なくするし、もっと無関心にさせると思いますが。

原子力では遺憾砲（誰に向かって何のためには？も多いですが）はよく撃ち込まれてますが、感謝砲はこの40年間一発も見たことはありません。
そんなところで働きたいですか？ 自分のお子さんが働きたいと言ったら「よくぞ言ってくれた」と反射的に言えますか？



1F地域塾の挑戦

結局は、お上のレベルでの政治的メンツ・政治的判断などを境界条件にした解の存在範囲内でのみ、下々はお上が「これが解なんだ」とするものへの対応だけを要求されている？ 知事や担当大臣、原子力界ほかは県民や国民との対話（対立ではないですよ）を続けてますか？

また、中高校生を含む地元の方々や福島の方々は1Fを本当はどうしたいのですか？

まだ高知県民（私が高知県出身なだけで他意はありません）が知ってるとは思いますが、宮城県や茨城県の方々はその意志を知ってますか？
廃棄物は「県外」搬出くらいまでは言われたら思い出したとしても、「あっそ、まあ頑張ってや。うちは関係あらへんから」

「1Fに税金ちゅかえ？ 何言うがぜよ。必要なとこ他にこじゃんちあるろうがえ」とならないためには？

事故前は原子力に反感・避けたいという身近な人多数（電力の3割が原子力なら。放射線標識。原子力の委員会）。今は？

それと、最近の傾向を考えると、

確証バイアス



<https://www.dallasnews.com/news/2021/02/04/doctors-debunk-myths-and-false-information-about-the-covid-19-vaccine/>

人は非合理的・非論理的な行動も多い。



<https://www.tokyo-np.co.jp/article/92694>

関心があって事実を調べ意見を持っていること。



<https://www.energia.co.jp/nw/safety/emf/faq.html>
https://www.nna.jp/nakanpasar/backnumber/190501/topics_002

深くは考えていないこと。
諸説あります状況だったり
誤情報満載だったり。
こっちが圧倒的多数ですよ。



議論することで「相互理解が深まり合意に至る」は妄想に過ぎないのではないですか？

自分と違う価値観は無視しているという心当たりはありませんか？

すなわち原理主義的になり二極化されていくことが必然なのではないでしょうか。

言い換えると、集団ごとの価値観・モラル・感情による対立激化になるだけ？（最近の例では、人工中絶）



正しいことか親切なことを選ぶなら親切なこと

オギーは見た目を変えられません。我々の見る目を変えなくては
人を労われ（いたわれ）。みんなも闘っている。相手を知りたかつ
たらすべきことはひとつ。よく相手を見ること。

：1F地域塾の挑戦につながるのでは

<https://movies.yahoo.co.jp/movie/363462/>
<https://www.goodreads.com/book/show/11387515-wonder>

McMaster
University



自己紹介

高橋洋充（たかはし ひろみつ）福島県立福島東高校 教諭（地歴・公民科）

- ・ 1971年（1 F 1号機稼働の年）生まれ。双葉郡浪江町出身。
- ・ 父は浪江で約半世紀にわたり食堂を営んでいました。家族を不自由なく養

うために、原発増設の陳情もしていました。（今は後悔している、とも。）

- ・ 私の最大の後悔は、「**子どものとき、思考停止していたこと**」です。
- ・ 「伝承館」「請戸小学校(震災遺構)」「廃炉資料館」などを繰り返し見学

しています。昨年松岡先生にご縁を得て、広島巡検を思い立ち、
**ヒロシマは被爆の教訓を平和という普遍の価値に繋げているが、
フクシマの原発事故の教訓はどういう普遍の価値に繋げることが
できるのか？** という問いを得ることができました。



「探究活動」で子どもたちとともに学んでいること (震災・復興関連)

1 年次 伝承館見学・語り部フィールドワーク・

元国会事故調事務局担当者による講話・伝承館広報動画製作

2 年次 汚染水・処理水海洋放出問題～「立場のちがう方々」による講話
(新地町の漁師 2 名の講話と、内閣府（経産省）による出前講座)

→たいへん興味深いアンケート結果と感想が集まりました。

今年度実施予定

1 0 月 松岡俊二先生（早稲田大学教授）による講話

宮本ゆき先生（デュポール大学教授）による講話

1 1 月 修学旅行（広島・関西方面）

震災後、学校現場で子どもたちとの諸活動を通して学んだこと

大人が語るべき事 / してはならないこと

- ・「問い」が連鎖する語り。
- ・自分が成功したことより、失敗したことを語る。
- ・自分の言いたいことを子どもの口を使って言わせない。

→子どもたちは自分の言ったことに縛られる。子どもたちに自分でじぶんに「呪い」をかけさせない。

学ぶことは変わること

- ・「何者でも無い」君たちだからこそ、考えられること・言えることがある。
君たちの**変化**に触れることで、大人が変わる。社会が変わる。

→君たちには確かな「ちから」があるのです！

①お話を聞く前のアンケート結果

福島県復興についてあなたはどう感じていますか？
223件の回答



②漁業者の立場からのお話を聞いた後のアンケート結果

福島県復興についてあなたはどう感じていますか？
169件の回答



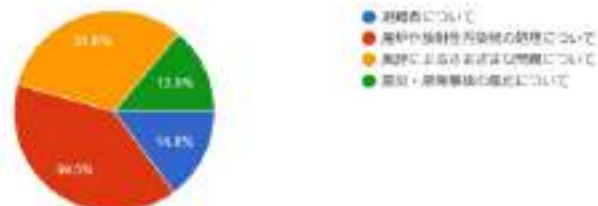
③2つの立場からのお話を聞いた後のアンケート結果

福島県復興についてあなたはどう感じていますか？
137件の回答



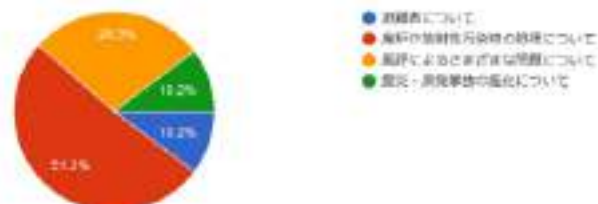
①お話を聞く前のアンケート結果

福島の「復興」課題でもっとも関心があるものを選んで下さい。
223件の回答



②漁業者の立場からのお話を聞いた後のアンケート結果

福島の「復興」課題でもっとも関心があるものを選んで下さい。
169件の回答



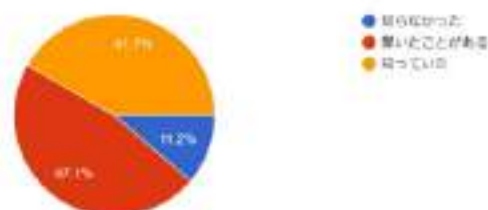
③2つの立場からのお話を聞いた後のアンケート結果

福島の「復興」課題でもっとも関心があるものを選んで下さい。
137件の回答



①お話を聞く前のアンケート結果

「処理水」「汚染水」の海洋放出について、この問題を知っていましたか？
223 件の回答



②漁業者の立場からのお話を聞いた後のアンケート結果

「処理水」「汚染水」の海洋放出について、この問題をどの程度理解できましたか？
100 件の回答



③2つの立場からのお話を聞いた後のアンケート結果

「処理水」「汚染水」の海洋放出について、この問題をどの程度理解できましたか？
127 件の回答



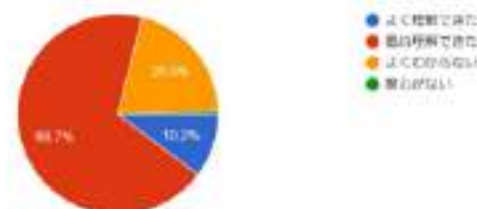
①お話を聞く前のアンケート結果

トリチウム（水）について知っていましたか？
223 件の回答



②漁業者の立場からのお話を聞いた後のアンケート結果

トリチウム（水）についてどの程度理解できましたか？
100 件の回答



③2つの立場からのお話を聞いた後のアンケート結果

トリチウム（水）についてどの程度理解できましたか？
127 件の回答



①お話を聞く前のアンケート結果

あなたは海洋放出についてどう思いますか。

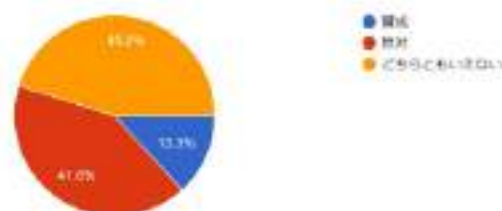
223 件の回答



②漁業者の立場からのお話を聞いた後のアンケート結果

あなたは海洋放出についてどう思いますか。

188 件の回答



③2つの立場からのお話を聞いた後のアンケート結果

あなたは海洋放出についてどう思いますか。

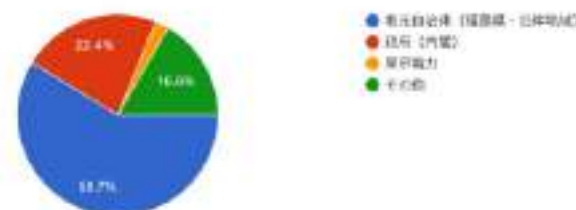
147 件の回答



①お話を聞く前のアンケート結果

海洋放出は誰が判断すべきだと思いますか？

223 件の回答



②漁業者の立場からのお話を聞いた後のアンケート結果

海洋放出は誰が判断すべきだと思いますか？（質問は以上です）

166 件の回答



③2つの立場からのお話を聞いた後のアンケート結果

海洋放出は誰が判断すべきだと思いますか？

137 件の回答



質問	3	巨大の漏洩量を稼げる良い機会だったと思った。これらもメンバーの方を前につけていたと思った。
質問	3	地元の人と政府の人では意見や価値観が全然違ってて比べながらくどくどと意見も納得できたりできなかったりするのを海軍方面との関係は全くも無いし無いしと思った。
質問	3	海軍が出たんですと、西が汚染されて漁業に問題が出るのでやめろとだと思えます。トリチウムやALPBは海軍は今でも全く把握がなかったのですが、今回の事故を通してかなり理解できました。漁業に悪影響が待てるようにになりました。
質問	5	商業者の話を聞いていたのは西や東京方面に不信感があったが、今回の話を聞いてきちんとした科学的な根拠があるに感じているのだったと思った。
質問	3	トリチウムへの考えが少し変わったかなと思ったけどやっぱりちよっと怖い。
質問	5	海軍が出た1番影響がある福島の人が決めるべきだと思った。
質問	4	光岡の地元の方からその意見聞いて、やはり福島を認めるのがだんなと感じ。どもらが正しいとか間違っていることができない。どっちも事実のことを見えていて、話し合いを重ねてどっちも納得できるような意見を出すことが出来たと思った。
質問	4	海軍が出た、トリチウムについて何も知らない漁業者の誤解を助けた。 光岡の漁師さんの話を聞いていて聞いてないという話を聞いての意見だが、そもそものたしは意見を主張するのでもあれと放出は賛成意見だった。でも、取り除くことのできたトリチウムが何年たってもなかったためやっぱりと聞ける事故ではなかったが、今回の誤解はトリチウムは普通の日本でも汚染している物質というところ、放射線として、健康には人体や海に悪影響がないこと、地味で放出した量で汚染した魚を食べることで健康は無いこと、政府の人と自分から意見を言へずという発言で多く受けたし)がわかりやすい賛成の意見だった。
質問	4	漁師の方の話がまじ海軍放出についてどっちの側で内閣の方をまじに議論して行くのかと思ったけれど結果のことを2回してはいてしまったなんかに驚かなかったです
質問	4	汚染水、処理水の海軍放出に対するどっの立場の意見を聞くという貴重な時間を過ごすことができた。また、漁民として話を聞いてもいくつか漁業の痛が出るのでその時に付けてより説明がたいと思った。
質問	5	2つの観点から話を聞いて、どっちも納得とは思えないので、仕事を一度交換して互いの見解により話し合うことが出来たと思った。
質問	3	多分漁民の意見が聞けて理解がより深まりました。
質問	4	内閣の方の立場はこれからの事を考えていて、話を聞いていても多くのことができた気がした。
質問	4	漁師さんの話を聞いて、漁業関係者の方とはまた別の観点から海軍や汚染水について考えることが出来た。
質問	2	
質問	5	自分が知らないところで海軍の様々な作業が進んでいることを知った。 そしてトリチウムについても今日話をきくまでは身体が重くない言われていたことを知ることがなかったが、普通の水や汚染水とかわらない性質であると感じて、ちゃんと安全であることが分かったためになった。 やはり自分も海軍や内閣の意見によって海軍放出はダメなものだと勝手に思っていたし、そう思っている人もまだ多いと思うので、メディアや SNSでの有様をどんどんやってほしいかなと思った。
質問	5	2人とも価値観について本気で考えられているが、考えが違っていてうまくことがあり、つらいことだと感じた。自分側にも海軍放出というのには賛成よりも反対側に傾くようになった。
質問	5	漁師さんの話を聞いて、海軍放出には反対していたが、経済産業省の話を聞いて、海軍放出に賛成するようになった。 両方の立場の二人を意見を聞いて、決めるのがすごく難しくなるなと思った。
質問	5	政府の意見と福島の方の意見の両方とも聞いてより理解が深まると思うが、私は処理水を放出することに反対してしまっ。それはトリチウム水が放出されたものなのか分からないので、しかし、今日の出席者の説明を聞いて、安全なものなんだと知りました。政府も東電に監督が出ないや呼びかけなどをしていくことが難しくなってきた。これからの安全性を伝えていきたいなと思いました。
質問	4	トリチウムは危険、というイメージが強かったけど、体内に入っても、蓄積されることがないと知って安心した。 漁民はおそらく読んでいないけど、漁業、研究、国に言いをもっとたくさんするべきだと思った。
質問	4	政府はより多くの人に政府の安全性を知ってもらう必要があると思う。
質問	1	特になあ
質問	3	汚染水の海軍放出について異なる立場の人たちからの話を聞いて自分の海軍放出についての考えを改めて考えることができた。
質問	4	海軍放出についてお互いの立場で真剣に考え、その考えの価値が伝わった。 他人事だとおぼろげ自分の考えも持てるようになっていた。
質問	4	汚染水、処理水について全くわかっていなかったのでも反対意見でしたが、ALPBは海軍の水のことがよく分り、かなり安全だと思ったので海軍放出に賛成意見に変わりました。

どちらともいえない	4	海抜放出について争ひ、政府と地元住民との話し合いを必要にしている必要があると思った。その立場から決断の意思を顕著にする報道で、より一層自分の考えを明確にすることができた。
どちらともいえない	4	海抜は海抜、高度は高度で異なることが気になるとは思いました。 なんなんかに高度は低いんだよの意見？に返つたのになか高い年月ががっかりして、その海抜に解決できる問題じゃないかなと思えました。
どちらともいえない	4	福島は福島、国は国なりに考えて、どちらの意見や一層あるんじゃないかと。
どちらともいえない		(返つたがそれのつもりで返りました。2週間たつたらずみません。)
どちらともいえない	4	政府の進めた方々の意見や考えを聞くことが出来たとしても話し難くなつたかと思ひました。海抜、放出について相対的な意見でその後の海抜業者の方の対応を聞いた時も反対だと思つていました。ですがちゃんと科学的根拠の無いものもあれば納得しづらい言葉があつて居たのであれは反対は反対といふことで済みました。色々なお話を聞いたことで話を聞いたし色々な考えが頭の中を駆け巡り、改めて考えたことがなかったけど今更なる私たちに考えるべきことだと感じたのでこれから少し考えて見たいというふうに思っています。
どちらともいえない	4	地元住民の方と、政府の方とも、福島のこととしっかり向き合せて努力してくれているんだと感じました。
どちらともいえない	5	最初は新聞などであつたが土地には国境があるし地下に埋めるのも何処の地にも何処の地にもリスクがある。だからといって安全(とされている)状態で国の海抜の決意を押し通ると信用できなくなり、人体の被害だけでなく経済面と外交面にも支障があるかもしれない。新聞記者は地域住民と政府との間の言葉を高く受けていないことだと感じ、話し合いの場を増やさないの考えを共有し納得と信用ができるまで決定してはいけなかつたと思つた。 自分は海抜放出についての考えをまだ持っていないです。しかし、もっと調べて考えることで考えがまとまってくるであろう。この問題について色々な社会問題と考える機会を大切にしたいと思ひます。
どちらともいえない	4	地産地消の方のお話を聞く前は海抜放出に反対だったが、聞いてからどちらとも思えないなと思つてしまつた。
どちらともいえない	5	自分たちには関係ないと思わず、深刻な問題として自分自身にもやでできることに取り組んでいきたい。
どちらともいえない	3	海抜放出について、違う立場から話を聞いて、どちらにも納得できる部分があつて、簡単に是非判断できないものだと感じた。
どちらともいえない	4	海抜放出の問題についての問題は複雑だが、単純にこの問題に関わっている人の話を聞くことで、偏つていた考え方をもっと多面的な考え方になつた。
どちらともいえない	3	海抜放出について話し合ふことが出来る事。
どちらともいえない	3	海抜業者と海抜放出する方々について、正確によつて考え方や、おとなしく、何を優先しているのかなどが見えてきて、考えるのがとても難しくなりました。
どちらともいえない	3	食料などの話は全文で要になると出来なかつたが、海抜放出という問題の考えとトナリウムについてある程度理解はできた。 この海抜放出という問題は、どちらの立場になつてもどちらかを肯定できてしまう。政府が言うのであれば、否とも公平な見方だが、どちらかが正解か、あるいは新しい案を出して折り合いをつけるしかない、とずっと解決しないと思ふ。
どちらともいえない	4	食料と関係してしまつたので海抜業者の方だけではなく、経済産業省の方など、多くの方が福島のことと関わっていることがわかりました。どちらか片方の側面をどうにか解決しようとしないまま進められてしまつたのは、もうのはずみでなのだからと胸の苦しさ。一度は食料はなめていたんだと思つていましたが、食料が日本人の命を助けて、食料を食ふことないなと思ひました。一方で少なくとも、いろいろな立場で考えるのは面白かつた。
どちらともいえない	4	トナリウムは作動中の施設も、国は安全だと発表した。福島県の食料の安全さを助けてもらうために希望としていくことの大事さを知ることができた。
どちらともいえない	3	この件に関わらず、ひとつの物事を色々な方々から見ることの大切さが分かった。
どちらともいえない	4	今日の話を聴くまでの意見が正しいのかかわからなかつた。どちらとも共感できる部分があり、どうすることが正解かわからない。
どちらともいえない	4	今まで私は福島市の海抜放出には反対な立場にたつたけど、国や東京電力の方々の努力の上での決定を受けていることがわかり、もっと冷静に受け止めて動かし考えたいと思つた。
どちらともいえない	4	海抜業者の方のお話を聞いたばかりは海抜業者の海抜放出には、彼の方々が納得していないから絶対に反対だと思つたが、今海抜業者の方のお話を聞き、定量的に様々な話し合いを何度も行ったことが初めてであつたので、このような立場がより深長になって両者が納得した上での海抜放出が実行されるのではないかと思ひました。
どちらともいえない	3	経済産業省の人から直接話を聞く機会が、新聞には無いので、とても良かった。
どちらともいえない	4	国と現地の人それぞれの考えがあり、自分たちが簡単に答えを出せるような問題では無いことが分かつた。
どちらともいえない	4	それぞれが自分たちの勝手な意見を押し付け、押し付けているだけなのかなと思つた。全員が福島のことと一生懸命考え、それぞれが国と今一緒に一歩前進に促さようとしていることが分かった。ただ、あまやけはやはり海上放出は反対なままだ。
どちらともいえない	4	私は最初、海抜放出をしていいのではないかと思つてはいたのですが、どちらの意見も聞いてみると悩ましいことばかりで、水の安全性は確保できても海抜業者などから出てくるいろいろな問題もあるのだと知りました。

どちらともいえない	5	汚染水の話題はニュースでサラッと耳に届きただけだったけど、僕も活動をしてそういったニュースにも耳を傾けるようになった
どちらともいえない	5	絶対反対と思っていたけど、話を聞いて少し考えさせられた。
どちらともいえない	4	トリチウムのことについて
どちらともいえない	5	違った視点から見ることによって海洋放出についてふかふかがえることができた
どちらともいえない		出前授業などを福島県外でも行っているということが知れて良かった。もっと多くやってほしいと思ったし、卒業ばかりでなく企業の大人に向けても開催してほしいと感じた。
どちらともいえない	2	簡単にまとめていると少し難しい
どちらともいえない	4	福島について知らないことが沢山あるなと実感ももっと詳しく知りたいと思った。
どちらともいえない	4	海洋放出についての意見が少し変わった
どちらともいえない	4	今回、佐藤さんを通してこれによって前面化した海洋側の気持ちがよく分かり、改めて反対でしたが、それが少し変わりました。海洋放出するために行っている作業が少し変わったことで理解が深まりました。
どちらともいえない	3	違う立場から物事を考えることによって、その事をさらに深く知ることができた。
どちらともいえない	4	佐藤さんと内閣府の方の話を聞く前は、タンクを置く場所がなくなるから海洋放出も仕方ないのかなと思いついてたけれど、佐藤さんの意見を聞いてみて、本当に大変な思いをしている漁師という職業が生まれてしまうかもしれないという危機もあるということを知り海洋放出に反対になりました。でも内閣府の方の話を聞いてみると内閣府の方々もいろいろ大変で、たくさんのがれがた中で、（難しい）事だったのが重々伝わってきたことでは海洋放出に賛成とも反対ともどちらとも言えない気持ちになりました。佐藤さんにも負担がかからず、負担つな海にも負担がかからないような物の使い方はないのかなと思いました。
どちらともいえない	3	国々の意見を聞き、新画面はなかったのかなと思った。
どちらともいえない	5	地元住民の意見を反映したいのならそうしてくれるような地方自治体を地元住民が選ぶべき。そうしたら地方自治体が上からの圧力を感じられなかったら変われるのかなとぼほぼほ思うようになりました。
どちらともいえない	5	それぞれの意見があり、どちらの意見も納得できた。話し合いを多くしてどちらも納得できるようにして欲しい
どちらともいえない	5	現在の現状について前より詳しく知れたのでその知識を次の世代に受けられるように伝える
どちらともいえない	4	海は海はどちらでも納得できる答えは見つからないと思う。それは、何故か話聞いても、「どちらが飲めよ」と言われたらええや海水だった水道水と学校の給水から出る水道水では、ほぼ全員が学校の水道水を飲むと思うからである。ただ、解決できないからといって諦めるのではなく一生懸命考えるものだと思うのでより深く知るべきだと思った。
どちらともいえない	3	汚染水がどうして漏れ出してしまっているかがわかった。海洋放出だけでなく、水質汚染などの面も知りたいと思った。
どちらともいえない	4	国策をやる前から汚染水や処理水のことで考えておくべきだったのかなと思いました。風評被害もどうしていいのかわからないかなと聞いていかなければいけないと思いました。
どちらともいえない	5	内容を耳で聞いて福島の問題を覚えている感じがしてきました。
どちらともいえない	4	人それぞれ思うところ違って、なのでそういう時に冷静にもっと多くの考えを交えて議論していくことが大事かなと思った
どちらともいえない	3	今まで知らないようなことを知ることができた。漁師や地元の人々の思いも深く伝わってきて自分も同じような思いになりましたが、これから海洋放出をしないならば汚染水をどうするか、佐藤さんの話を聞いて安全な方法で、海洋放出していいのではないかなとこの考え方が少し変わりました。違う視点から問題を解いていい勉強ができた。
どちらともいえない	4	自分の視野が狭いことに気づきました。自分の地元の方に知っていたことと違うことや驚いたことと気づきました。まだまだ自分が福島について知らないのかを感じました。
どちらともいえない	4	経済産業省の方の話を聞いて、海洋放出の安全性やその他の取組事項加減の様子と分かった。指を聞く前と後で考えが変わるところもあった。
どちらともいえない	4	全て解決しました
どちらともいえない	3	10年たった今でも様々な問題があるんだなと思った
どちらともいえない	3	トリチウムなど、専門家以外には難しい問題もあると思うが、できるだけ仲間みつけて一般の人に説明する努力がされていると思う。やけどトリチウムを障害する技術などにも力を入れ、早く安全なものとみなせる技術の開発があるといいなと思った。
どちらともいえない	4	お互いに意見を述べているけれど、福島のためという根本的な所は同じなのかなと思った
どちらともいえない		どうにかしないといけない問題だということばかりを聞くと、進んでどうにかしないところはないと思うから難しかったと思いました。

どちらともいえない	4	自分の中では震災はもう過去のモノとどこかで思っていたけど、まだまだ化学的に認識しなければいけない問題があって教育できていないと考えようと思いました。
どちらともいえない	4	福島県のことについて今までよりも深く知ることが出来たと感じました。
どちらともいえない	3	自分はおもひ屋漁業科については知らなくて今回の講演を聞いて、漁師の人からしたら仕事がないかなかもしれないとおっしゃっていたのでそれぞれの意見をもっと聞くべきだなと思いました。
どちらともいえない	4	自分にはあまり関係のない事だと思っていたが、人によって大問題になることを知った。こまめに問題にもっと関心を持つようにしたいです
どちらともいえない	3	福島水について
どちらともいえない	5	立場によって考え方が違うことがわかった
どちらともいえない	4	トリチウム水について関心を持てた
どちらともいえない	4	風評被害の対策がまだまだ進んでいないかなと思いました
どちらともいえない	4	地元と経済産業省両方からの意見を聞いて、どちらの立場も福島のために頑張ってくれているのだと分かり、安心できた
どちらともいえない	4	ずっと海洋放出は反対だと思っていたが第三者からの安全性の証明や日本の厳しい基準の検定について知り風評被害が起きないのなら海洋放出しても大丈夫なのかなと思うようになった。しかし先ずの心配を減らすと安全でかつタンクの土地が確保と分かっていたのに、11年間ずっと放出は許すつもりでいたのは不安にさせる原因のひとつなのではないかなと思う。
どちらともいえない	4	放射性水の問題を通じて、やはり地元住民たちと政府はまだまだ議論していかなくてはならないと感じた。また、魚介の問題については資料づくりの徹底が深刻で、この問題に際しては地元民に、30年経っても解決できないと思った。
どちらともいえない	4	思った以上に福島水が安全なのかなと知りました。これから先やる処理水での魚の飼育が楽しみだなと思った。
どちらともいえない	3	トリチウムの危険性はまだよく知らなかった
どちらともいえない	4	地元住民の人の意見をもっと聞いてもっと詳しく知るのがいいと思いました
どちらともいえない	4	エンパシーという言葉がしきた。僕いところから人が来てくれて対策などについて何となくわかっていて正確な知識が欲しいということがわかった。
どちらともいえない	4	双方からの意見や考え方を聞くことで両方からの視点を捉えて考えることができたのかなとかなできない貴重な経験が出来ました。私は初めて詳しくお父さんの話を聞くこともできたのでお父さんへのお話を聞く前とその後で気づけたこともあり勉強になりました。海洋放出を議論していることは事実ですが、これは問題を待つことではないかなとわかった。もう海洋放出を決定していることと知ると海を大事にしてほしい、思いでいっぱいです（今までこの問題を放置していたのに海をそんなことは言えませんが）、でも本当に、海は大事にして欲しいです。水が飲めなくなったら何もできないとよく考えられていると思います。世界は政府で世界的なモニタリングのしやすい海洋放出を選んで少しでも安全にしてくれようとしていこうけど住民の心配をとりつて言ったんだから約束は守るべきです。めんどくさいから簡単にすれっば政府でつら上げて福島から海洋放出決定しても、海は破壊しているんだから自然にも被害が及ぶかもしれない福島県民のこと考慮にすぎていると思えます。地方者だからこっちは知らないことをいいことに今は押し込んでますけど、ほんとにそれが正しいことなのかと時々疑問に抱きます。
どちらともいえない	4	佐藤さんと内閣の話をトリチウム水の放出の事で矛盾しているということに気づいた。

自己紹介

- ・ 溝上 伸也 (みぞかみ しんや)
- ・ 生年月日: 1973年1月3生まれ 現在49歳
- ・ 出身地: 愛知県清須市



- ・ 1991年3月 愛知県立明和高校卒業
- ・ 2000年3月 東京大学大学院工学系研究科システム量子工学専攻 博士号取得
- ・ 2000年4月 東京電力入社 柏崎刈羽原子力発電所 配属
- ・ 2001年4月 東京電力 本社 原子力技術部炉心・燃料グループ
- ・ 2011年3月11日 東日本大震災発生 福島第一原子力発電所事故
本社にて事故対応、主に使用済燃料プールの安全性・水位評価、に従事
- ・ 2011年7月～ 福島第一原子力発電所事故分析に従事
- ・ 2016年3月 東京電力 廃炉カンパニー プロジェクト計画部 解析評価GM
- ・ 2019年12月 スペシャリストS (福島第一原子力発電所事故の分析と調査) 任用
- ・ 2020年4月 (兼務) 日本原子力研究開発機構 客員研究員

現在に至る (本社勤務22年目)



林 誠二 (博士 (工学))

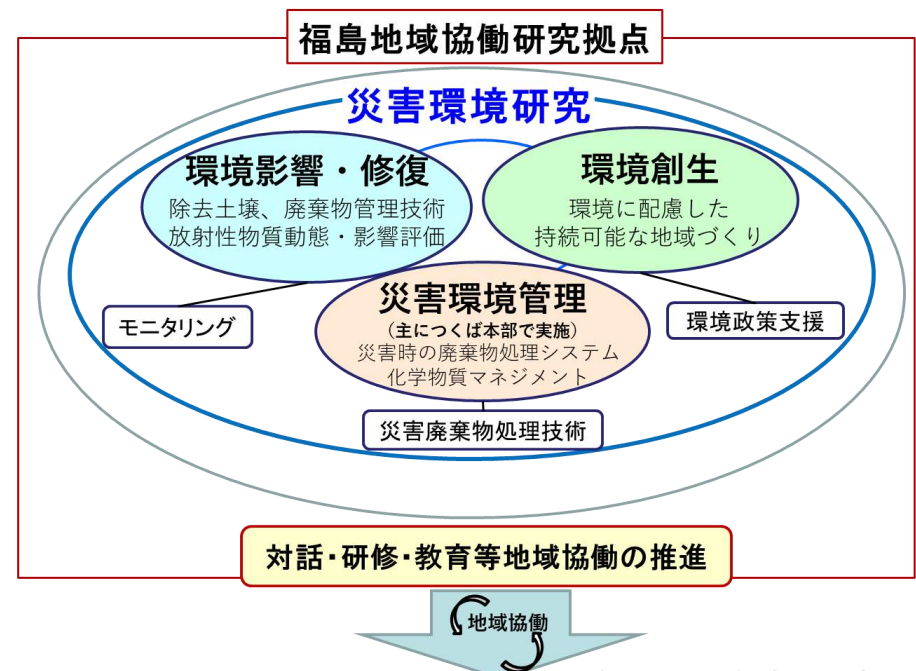
国立環境研究所福島地域協働研究拠点
研究グループ長 (地域協働推進室長兼務)

環境の“知”を、地域とともに。



国立環境研究所
福島地域協働研究拠点

- ✓ 1968年、長野県岡谷市に生まれる。大学院での博士課程修了後、1996年に国立環境研究所に入所。中国長江流域や亜熱帯島嶼地域、霞ヶ浦流域等における流域環境管理研究に従事。
- ✓ 2011年3月福島発事故後、河川流域における放射性物質の環境動態の解明や影響評価に関する研究を主導。
- ✓ 2016年4月より福島県環境創造センター研究棟内に設立された福島支部 (2021年4月より福島地域協働研究拠点に名称変更) に勤務。
- ✓ **災害環境研究**として、**地域と協働**して**災害に強靱で持続可能な社会**の構築に研究面からどのように貢献できるのか、日々模索中。



地域の環境復興・SDGs達成に貢献

環境面からの将来の災害への備え

ひとりひとりが取り組む 防災

1. なぜ【防災】なのか
2. 災害時に大切なこと
3. 防災で大切なこと
4. 高校生の「ち・か・ら」
5. 継続中のアクション

1. なぜ【防災】なのか

高1の授業で請戸小学校へ



目の前が海、山まで1.5キロ

津波から逃げられるのか？

1. なぜ【防災】なのか



足が固定されているので走りづらい
体を動かす事は、大好き...だけど
スポーツテストは、いつも E判定

みんなと同じ？ ようで、ちがう

1. なぜ【防災】なのか

7割
自助



市民力

1割
公助



行政力

2割
共助



地域力



防災の3つの要素

2. 災害時に大切なこと

おさない はしらない



しゃべらない もどらない



支援学校での
避難訓練について

本校体育教師
安齋先生に
お話を聞く



もしも、海辺の地域だったら...

2. 災害時に大切なこと

軽

障害

重



パニックになる子も...

2. 災害時に大切なこと



障害を持っている人の避難には・・・

知識と人の助けが必要



私でも出来る事はあるか？

2. 災害時に大切なこと

避難行動要支援者

広野町では、要配慮者のうち、災害が発生し、又は災害が発生するおそれがある場合に自ら避難することが困難で、特に支援を必要とする方々を「避難行動要支援者」として把握し、支援する体制の構築を目指しております。

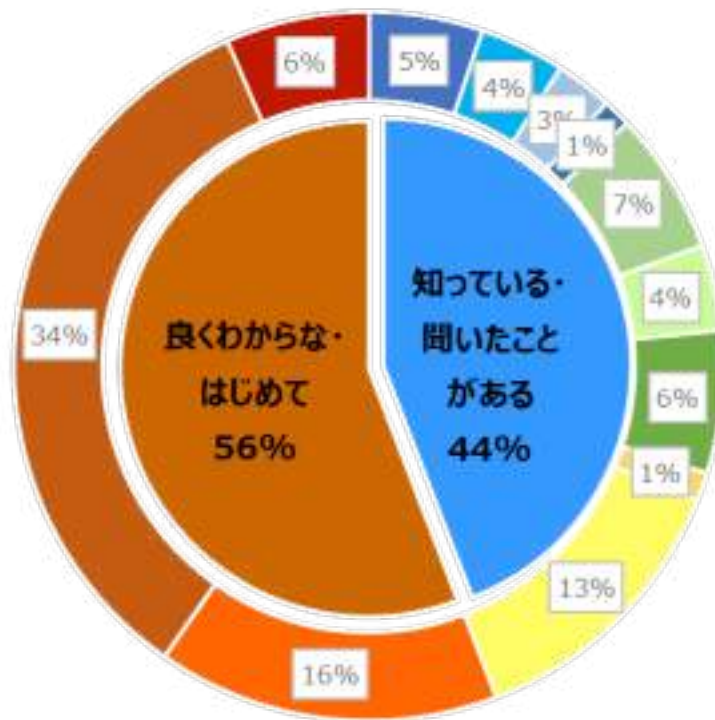
- ① 70歳以上のみの世帯員
 - ② 要介護認定3～5を受けている者
 - ③ 身体障害者手帳1級～2級を所持する者
 - ④ 療育手帳Aを所持する知的障がい者
 - ⑤ 精神障害者保健福祉手帳1級を所持する者
- その他、特別な事情で支援を希望する者
(日本語に不慣れな外国人、難病者、重度心身障がい者、妊産婦等)



地域によって少し違う対象者...

2. 災害時に大切なこと

避難行動要支援者避難支援制度の認知



- 東日本大震災以前から知っている(当事者)
- 東日本大震災以前から知っている
- 東日本大震災以前から知っている(仕事)
- 福祉でならいでした。その他にも自分の周りに多いので知っています
- 身近に災害があつてから知った(仕事)
- 身近に災害があつてから知った(当事者)
- 身近に災害があつてから知った
- 市役所から書類が来た
- 制度名は聞いたことがある
- 制度名は知っているが、内容はよく知らない
- 今回初めて知ったので、調べてみようと思った
- 初めて聞いた・知らない・興味がない

2021年アンケート結果 回答数75件

半数以上の人が知らなかった

2. 災害時に大切なこと

要配慮者・避難行動要支援者とは？

高齢者や障がい者、傷病者、乳幼児、外国人など、災害発生時に何らかの支援が必要な人を要配慮者・避難行動要支援者といいます。

対象となる方は

- 介護・支援が必要な高齢者
- 知的障がいのある方
- 肢体不自由のある方
- 精神の障がいのある方
- 内部障がいのある方
- 妊産婦、乳幼児
- 視覚に障がいのある方
- 保育園児・小学生
- 聴覚に障がいのある方
- 日本語が不自由な外国人
- 音声・言語機能障がいのある方
- 災害時負傷者、帰宅困難者、旅行者

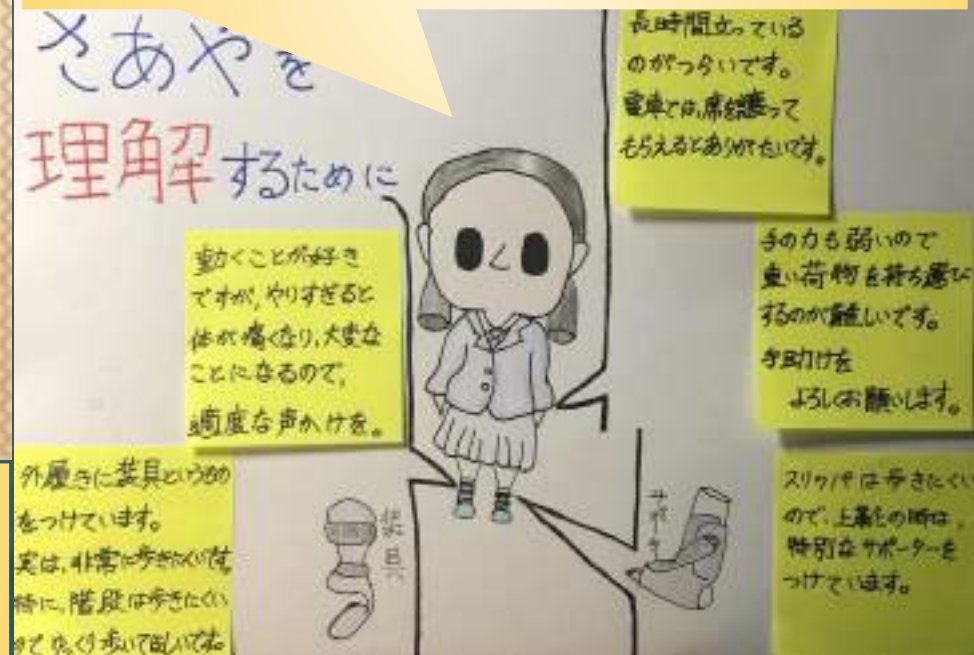
制度の対象外の人がいる

3. 防災で大切なこと

私の名前
血液型
持病
保護者・家族名
自宅の電話番号
今の住所
被災前の住所
側近家族電話番号

スマホが使えなくなるかも？
自分の情報は紙に書いておく

苦手な事・特徴・お願い
自分のマニュアルを作る



安心のために備えられること

身分証明 氏名(ふりがな) _____		持病など _____	持病の薬 _____
生年月日 西暦 _____ 年 _____ 月 _____ 日 血液型 _____ 型 性別 _____		健康保険証番号 _____	
自宅住所 _____			
TEL _____			
所属先 _____			
住所 _____			
TEL _____			
かかりつけ医療機関 _____ TEL _____			
家族の連絡先			
関係()	氏名 _____	・所属 _____	・TEL _____
関係()	氏名 _____	・所属 _____	・TEL _____
関係()	氏名 _____	・所属 _____	・TEL _____
親戚・知人の連絡先			
関係()	氏名 _____	・所属 _____	・TEL _____
関係()	氏名 _____	・所属 _____	・TEL _____
関係()	氏名 _____	・所属 _____	・TEL _____
避難場所、家族の集合場所と連絡先			
()	場所 _____	TEL _____	
()	場所 _____	TEL _____	
		もしもの時に 伝えたい事があったら記入しよう!!	
もしもの時は、よろしくお願いします。			

安心できる事

支援のお願い

特徴や特性

苦手な事



支援者側にもなれる！

4. 高校生の「ち・か・ら」

生徒の電車通学率



93

中学生

180人中



199

高校生

328人中

※

※三島長陵校舎の学生を除く

広野町に住む寮生は、167人

4. 高校生の「ち・か・ら」

20キロ

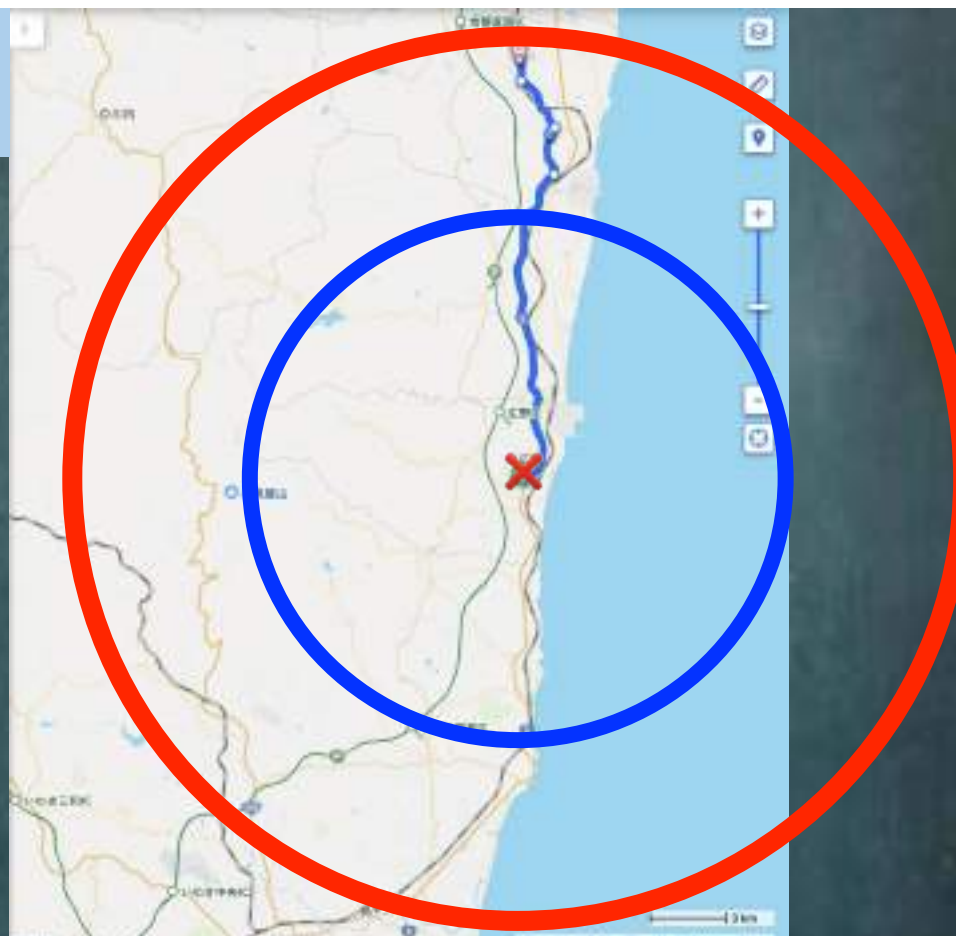
ふたば未来学園



草野駅
付近

夜ノ森駅
付近

歩いたら約4時間



帰宅困難者とは？

様式1 人口

●世帯・人口
高野町
白旗町
新富町
太田代
東栄町

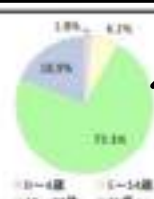
●施設・団体
市役所・区役所
警察・消防
消防団
水防倉庫
一時避難場所
広域避難場所
土砂災害
特別警戒
区域
土砂災害
警戒区域
指定区域
土砂災害
警戒区域
指定区域

総人口	2,957人	地区の割合	市の割合
0～4歳	52人	1.8%	4.0%
5～14歳	184人	6.2%	8.5%
15～74歳	2,162人	73.1%	74.6%
75歳～	559人	18.9%	12.9%
65歳以上人口	1,085人	36.7%	26.0%
世帯数	1,139世帯		
一世帯あたり人口	2.6人／世帯		2.5人／世帯
人口密度	248人／km ²		1,108人／km ²
昼間人口	8,490人	夜間の287.1%	



●人口

総人口	2,957人	地区の割合	市の割合
0～4歳	52人	1.8%	4.0%
5～14歳	184人	6.2%	8.5%
15～74歳	2,162人	73.1%	74.6%
75歳～	559人	18.9%	12.9%
65歳以上人口	1,085人	36.7%	26.0%
世帯数	1,139世帯		
一世帯あたり人口	2.6人／世帯		2.5人／世帯
人口密度	248人／km ²		1,108人／km ²
昼間人口	8,490人	夜間の287.1%	



●建築物の概要

総棟数	2,562棟	地区の割合	市の割合
1955年以前建築	1,028棟	40.1%	44.2%
1955年以降建築	1,534棟	59.9%	55.8%
計	2,562棟	100.0%	100.0%
1955年以前建築	1,028棟	40.1%	44.2%
1955年以降建築	1,534棟	59.9%	55.8%
計	2,562棟	100.0%	100.0%
1955年以前建築	1,028棟	40.1%	44.2%
1955年以降建築	1,534棟	59.9%	55.8%
計	2,562棟	100.0%	100.0%



●災害危険性の評価

地区東部の低地は、数回にわたる地震の影響を受け、大きな被害の恐れがある。強い揺れや液状化の可能性が高い。地区の中心から北部の海岸線と平行に並ぶ砂丘では、液状化の可能性は低い。付け根の危険がある。津波による浸水は、南部の低地や海岸沿いで予測されている。新大塚川・新大塚川流域の洪水によって、地区南部の低地で浸水の可能性が高い。砂丘の浸水には、土砂災害警戒区域等が指定されており、付け根の危険がある。

日本が100人の村であれば

4. 高校生の「ち・か・ら」

避難行動要支援者
避難支援制度
制度対象者 4～5人



要配慮者
45人程

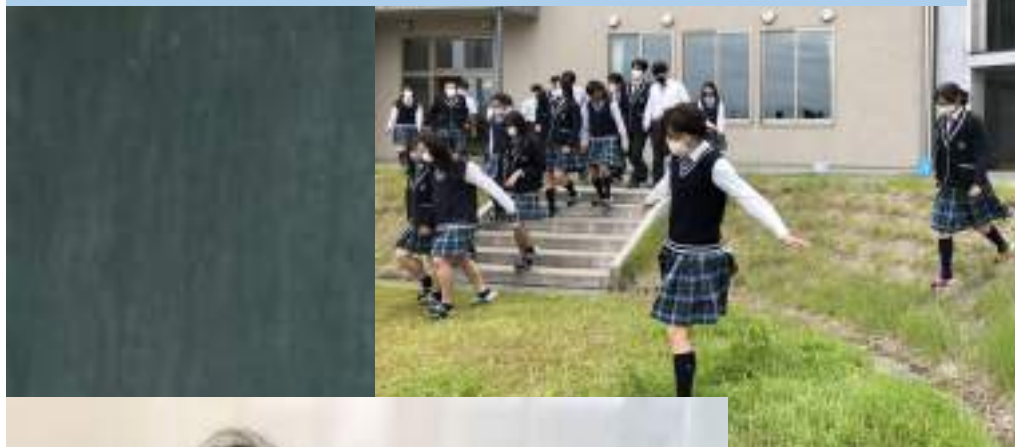


有職者 53人
失業者 1.5人

中学生 2～3人
高校生 2～3人
学 生 2～3人

総務省「国勢調査を基準とする推計値」(令和2年) DDL「LGBT調査2018」厚生労働省「人口動態統計」(令和元年) 内閣府「障害者白書」(令和2年)

5. 継続中のアクション



シン・避難訓練(6/10)

1位 福島県

福島県 7,457回
(2011年1月1日～2020年12月31日)

4位 岩手県

5位 熊本県

6位 千葉県

7位 栃木県



12:24ころ
茨城県沖
マグニチュード
5.8
最大震度
5



5弱の地震

常磐線は約4時間
運転見合わせ

その後も
遅延や一部運休

お迎えに来て貰えばいいって、思っていないですか？



5. 継続中のアクション

大きい地震をみんな体験しているので
自分が何をすべきか分かると思うので
避難訓練はしなくていいと思います。

避難訓練後の感想コメント

震災があった地域だから中途半端にやらないようにしようと思った。(高1)

自分たちの身の安全のための行動であることを改めて自覚できた時間だったと思う。(高3)

自分の県が1番地震が多いと言うのを聞いて改めて防災意識を見直していきたいと思います。(高2)

5. 継続中のアクション

平成28年完成



広島市防災備蓄倉庫



2000人✕3日分の食料

広島市防災備蓄倉庫見学(7/14)

本日

完

継続中



福島浜通り地域の産業経済の将来像を考える

島田 剛(明治大学情報コミュニケーション学部・准教授、
創造的復興研究会・主査)



自己紹介(島田 剛 Go Shimada)

明治大学 情報コミュニケーション学部 准教授(国際経済学)

専門: 産業政策、震災復興、ソーシャル・キャピタル

1992-2015 国際協力機構(JICA): 産業貿易課長、理事長室秘書役(緒方貞子理事長、大島賢三副理事長担当)など

2005-2007 国連日本政府代表部(NY) 一等書記官

2015-2018 静岡県立大学 国際関係学部 准教授

2018年より現職

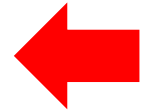
(この間、コロンビア大学 客員研究員、アジア開発銀行 コンサルタント、EU (European Union) コンサルタントなど)

学位: 博士(早稲田大学、学術)、修士(マンチェスター大学、開発経済学)。

論文: Shimada, Go. 2015. "The role of social capital after disasters: An empirical study of Japan based on Time-Series-Cross-Section (TSCS) data from 1981 to 2012." *International Journal of Disaster Risk Reduction* 14: 388-394. など

報告の内容

1. 創造的復興研究会の研究の全体像



2. なぜ震災後の産業復興に取り組むようになったのか

3. 浜通りの産業政策研究

経済

福島浜通りの産業政策研究
(島田剛)

社会

社会構造の研究—双葉町・大熊町を事例に (辻 岳史さん)

2050年の福島浜
通り社会の将来像
研究

文化

1Fの遺構化、世界遺産化
(高原耕平さん)

応用研究

エコミュージアム構想研究

報告の内容

1. 創造的復興研究会の研究の全体像

2. なぜ震災後の産業復興に取り組むようになったのか



3. 浜通りの産業政策研究

震災復興研究に取り組み始めたきっかけ

1969年 神戸元町通り3丁目生まれ

1992年 就職し上京（阪神淡路大震災時には東京）

家族たちが震災対応や復興に奔走する中、なにもできず悔いが残る。



実家の壁新聞
(元町通3丁目、海文堂書店)



実家の隣のビルは崩壊し更地に

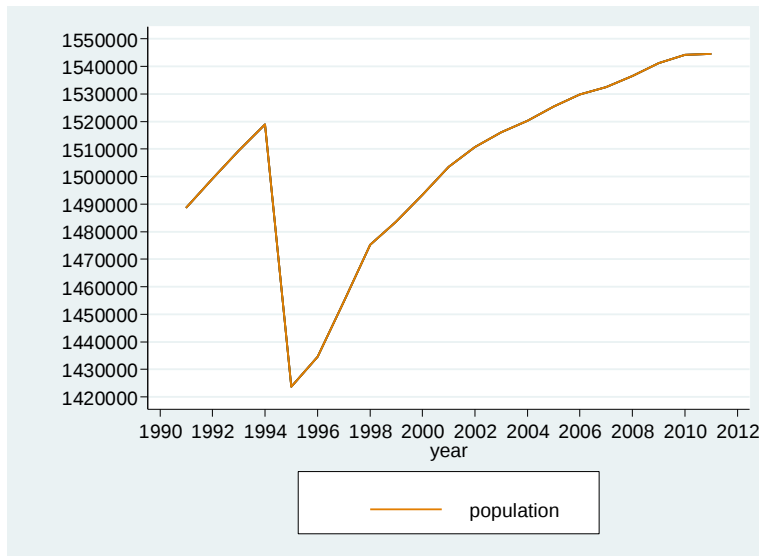


アート・エイド・神戸

2014年 松岡研究室で阪神淡路の復興について研究。「つながり」と産業復興の関係を定量的に分析

地域的なバラツキのある神戸市の復興

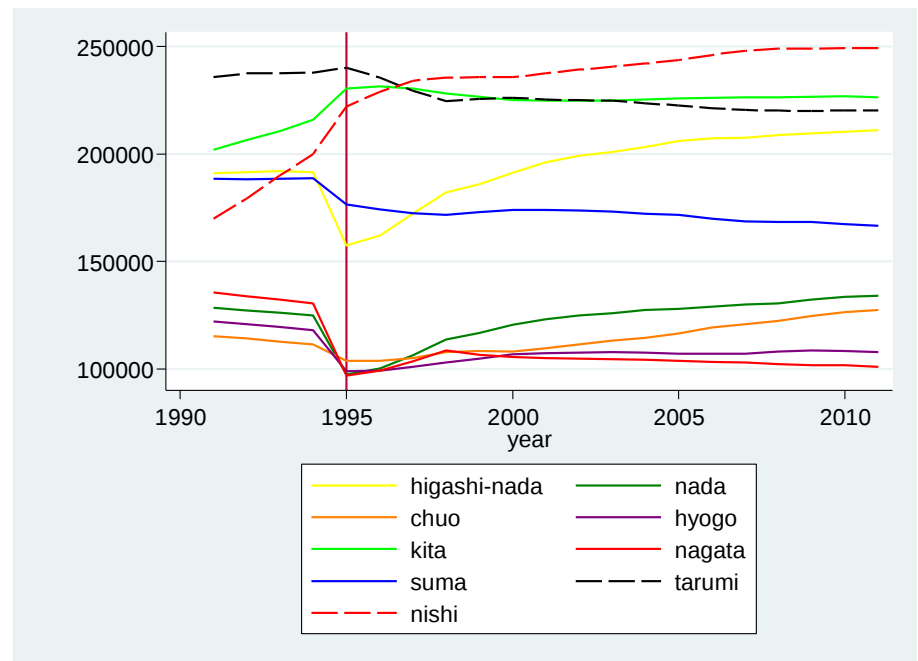
総人口は10年で回復



(Source: Shimada 2014)

- 創造的復興
 - 神戸医療産業都市
- 大阪のベッドタウンとして

しかし長田区は人口流出が続く



(Source: Shimada 2014)

- 復興災害
 - インナーシティの都市化
 - 大阪のベッドタウンへ

長田区の復興の遅れ — インフラ重視、地域産業衰退



報告の内容

1. 創造的復興研究会の研究の全体像

2. なぜ震災後の産業復興に取り組むようになったのか

3. 浜通りの産業政策研究



福島浜通りの産業研究

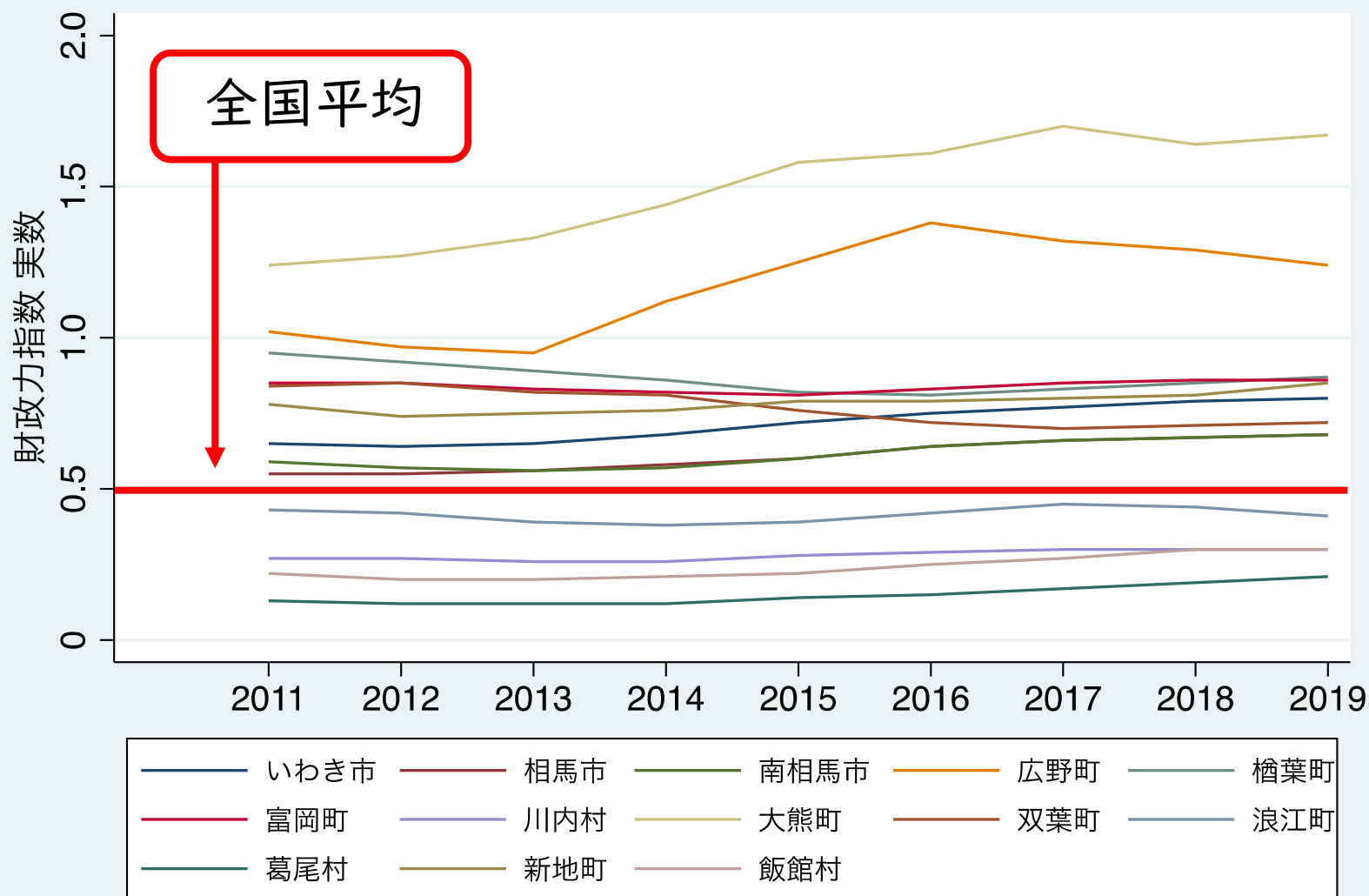
長期的には政府の補助金は減少する可能性。原子力産業依存からの**転換**が必要



- どんな**産業**が**可能性**がありそうか（**補助金**なしで、十分な**雇用**や**所得**が地域に生み出せる産業）？
- また現在の政策は新たな産業の育成を促せているか？
- **廃炉**産業を**地域産業化**する可能性？

- 意図せずして「結果的に」新たな産業の成長を阻害しているかもしれない（**クラウディングアウト**）？
☞ 働き手の不足、賃金上昇など？
- イノベーション・コースト構想は全く不要？それとも何かチャンスに生かせる可能性は？

行政の財政力指数は全国平均0.49-0.51よりも高い



(出典：総務省「地方公共団体の主要財政指標一覧」より著者作成)

日本の財政赤字はGDPの約260%

FRED  — General government gross debt for Japan



今後は人口減で税収も減少。
さらに厳しい財政が予想される

研究のステップ

1

- ・ **インタビュー調査1**: ネクサスファームおおくま、大熊町インキュベーションセンター、双葉町中野地区復興産業拠点など

2

- ・ **インタビュー調査2**: グッドプラクティスな企業と企業家などを特定、必要な行政な支援について聞き取り

3

- ・ 人材育成手段について検討
- ・ **インタビュー調査3**

ふくしま浜通り地域社会の 将来像を考える

株式
会社

ネクサスファームおおくま



取締役兼工場長 徳田辰吾



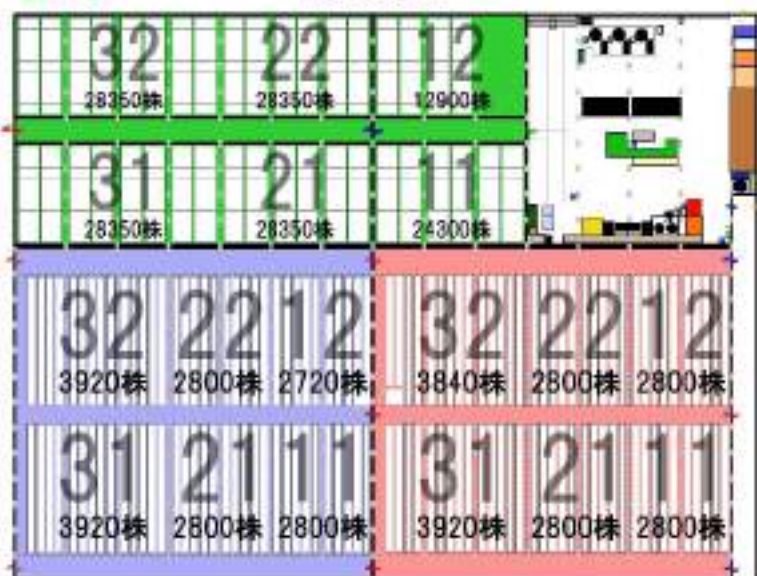
いちご植物工場



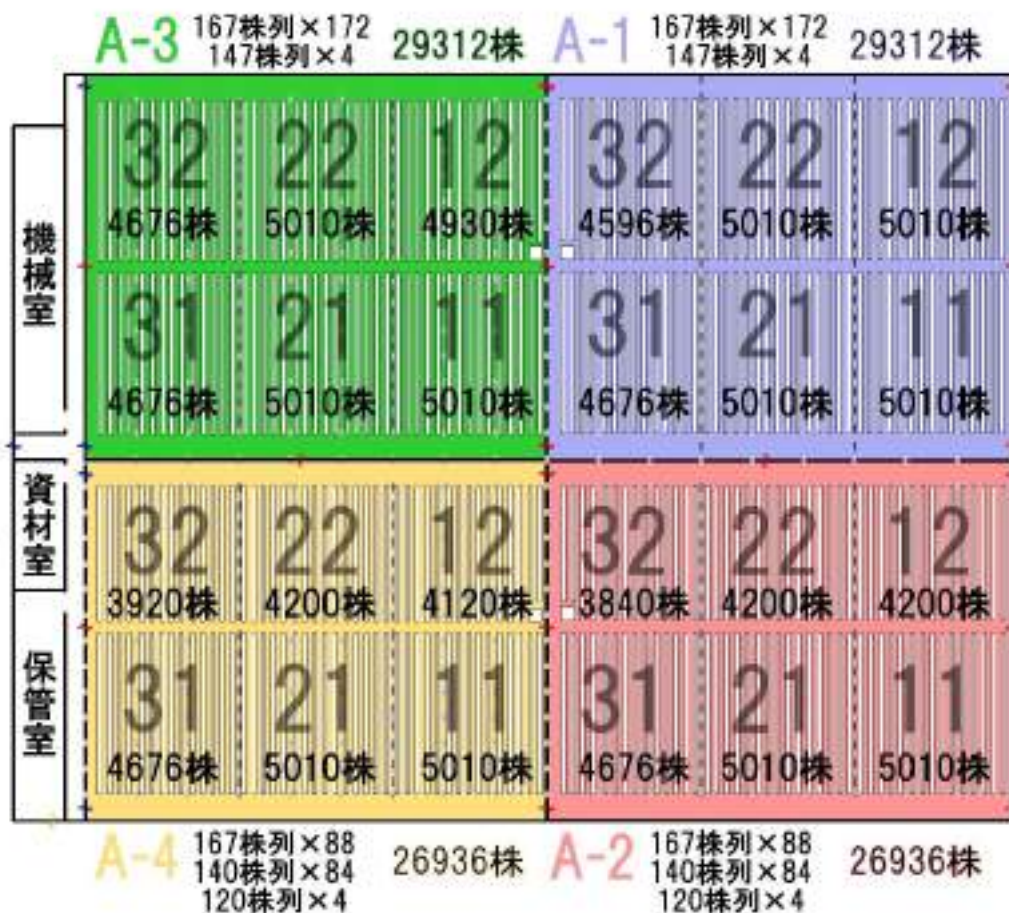


建屋内部

B-3 9ベンチ×19 153900株



B-1 140株列×132 120株列×4 18960株 B-2 140株列×132 120株列×4 18960株





いちご植物工場 圃場(栽培棟)





いちご植物工場 作業準備室





取り組み

🍓に特化し

四季成り性品種（夏秋🍓）と
一季成り性品種（冬春🍓）を
組み合わせた周年栽培・周年出荷。

I P M（総合病虫害防除）を
取り入れ、農薬を低減した栽培。
GAPにもとづく生産工程管理と、
自社による放射性物質全量検査。
安全データの積み重ねによる
安心・安全な生産物の供給。

誰でも働ける農業の実現、
作業者の負荷を減らす作業改善と、
労働生産性を向上させるための
オペレーションを追及。

環境・生育・作業データを蓄積・分析し、
経営に最適な生産体制を構築。
継続可能な農業モデルの確立と、
次世代農業経営者の育成。



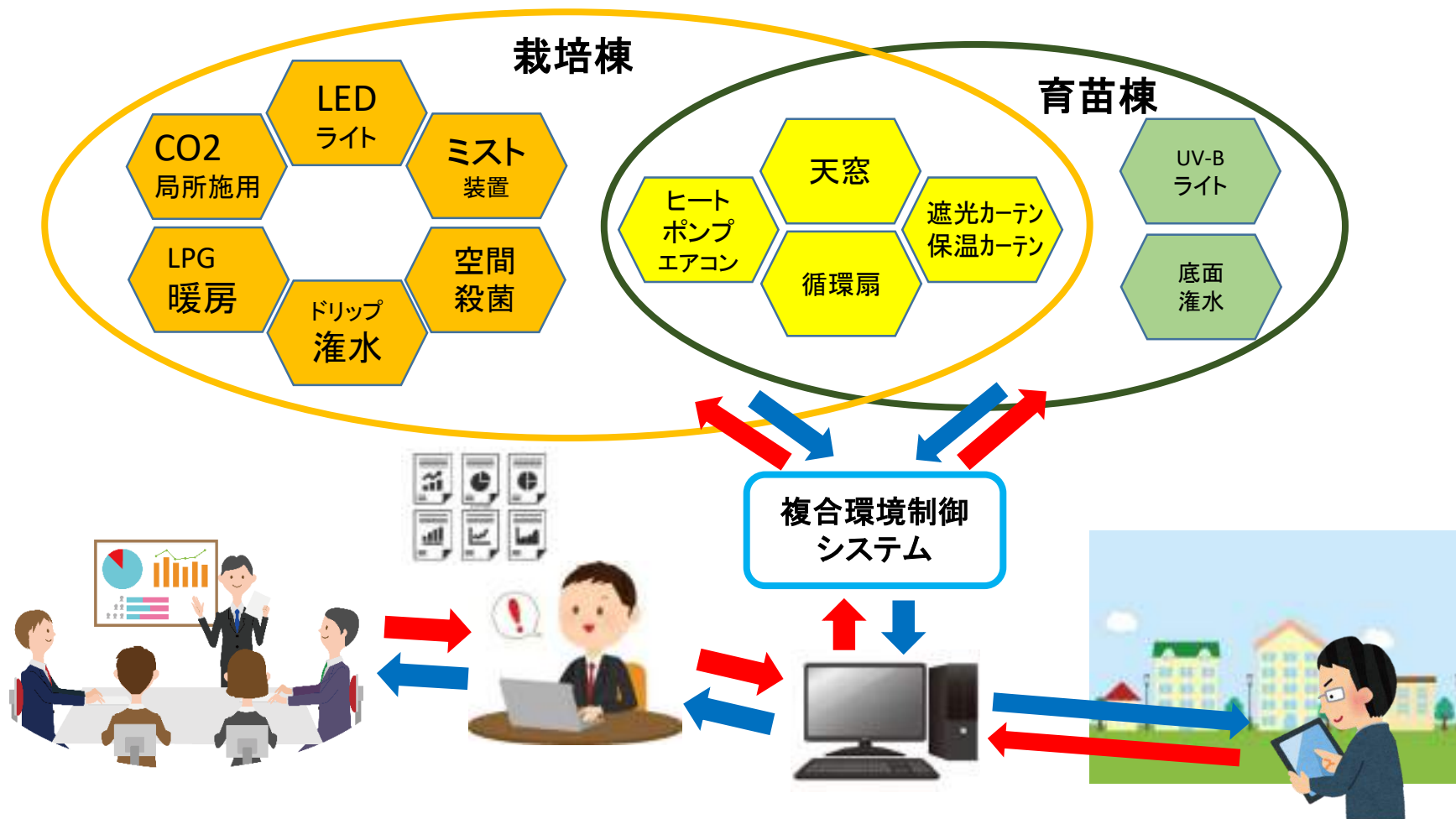
栽培品種と収穫時期

	2022年							2023年				
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
夏秋いちご (四季成り性品種)	すずあかね											
冬春いちご (一季成り性品種)							福島ST14号（福島県新品種）					
							とちおとめ					
							紅ほっぺ					
								やよいひめ				



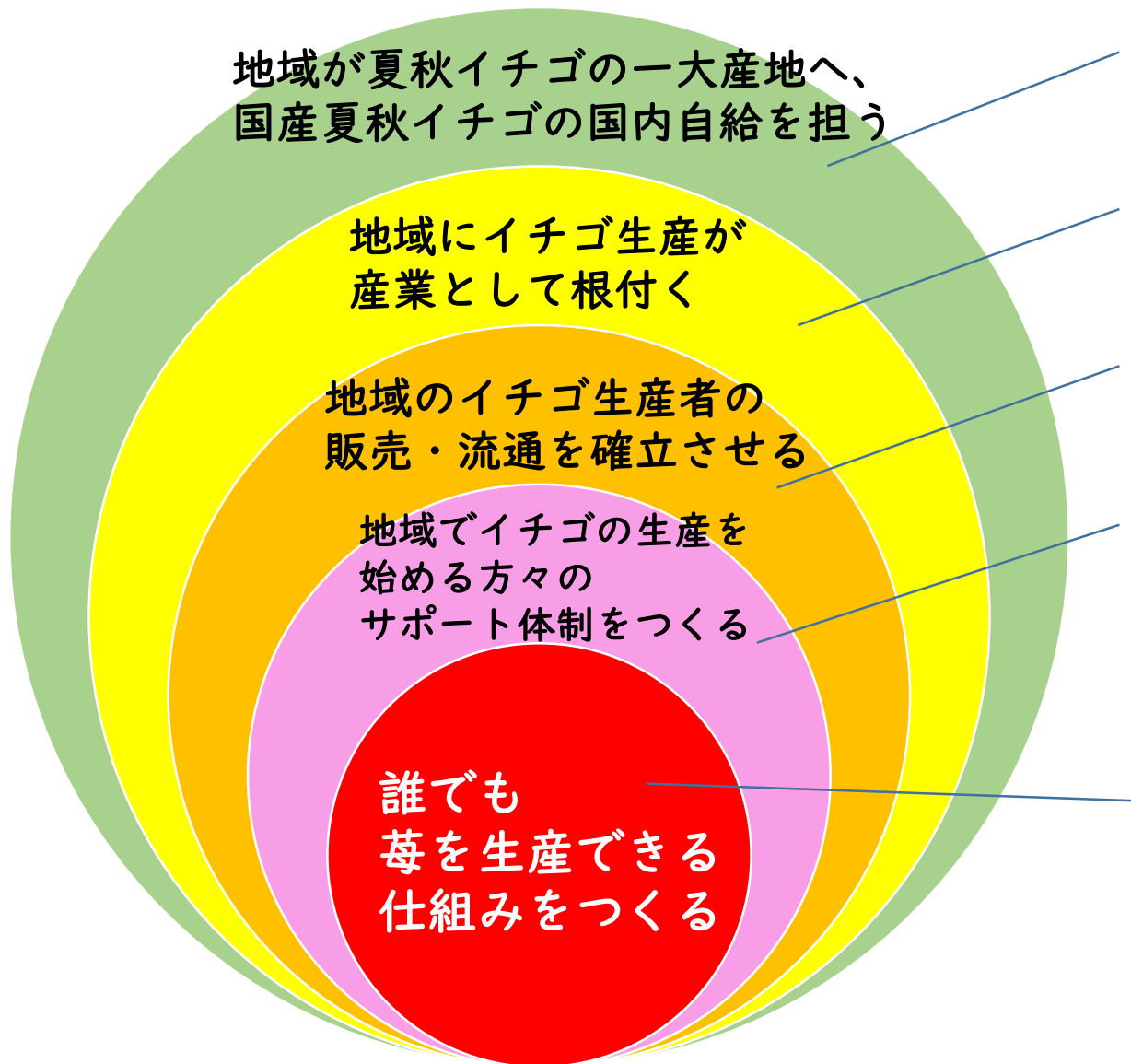
システムで圃場内を自動制御

ハウス内の「温度・飽差・光・CO2濃度・灌水・風」を、いつでもどこからでも監視・コントロールする事が可能。リアルタイムで状況を把握できる事でアクションスピードがUP！





地域の将来像



2041年～

2030年～2040年

2027年～2029年

2024年～2026年

2019年
～
2023年

今、ここ
やっています！



自己紹介

- 齋藤真緒
 - 大熊町出身（夫沢3区）
 - 大学4年生
（社会学主専攻）
 - 休学中
- 沖縄、岩手、宮城、
熊本、愛知、三重、
広島...



論点

- 本来あるべき開発・イノベーションの姿
- 伝承と開発・イノベーションは相容れるものなのか
- 開発・イノベーションは震災前に住んでいた住民を視野に入れているのか

- 高原耕平（たかはら こうへい）
 - 1983年 神戸生まれ
 - 神戸大学工学部情報知能工学科 **中退**
 - 大阪大学大学院文学研究科・ **臨床哲学** 研究室



- 人と防災未来センター 主任研究員
 - 阪神淡路大震災の「震災学習」と記憶継承
 - 減災システム社会の技術論
 - <https://researchmap.jp/takahara1983/>
- ふくしま広野リサーチセンター 客員研究員（2022-）
- 兵庫県立大学減災復興政策研究科 客員研究員（2022-）



創造的 復興★ 研究会

- 災害伝承と世代
- 災厄の被災地の「精神的再形成」
- 世界遺産と福島

テーマは「物語と未来」？

テーマ

浜通り地域の 将来像

原発災害の「証人」として

- 科学技術社会の一つの「結果」を体現
- 複雑な廃炉プロセス自体の稼働遺構

伝承と精神的再形成の**原点**として

- 広島の被爆者の語り：「投下地点から～～mのところにいました」
- →被災体験、自治体避難、帰宅困難、除染、産業復興など、現在と未来の物語の原点

追加論点

福島第1原発の 「遺構化」

未来世代の財産として

- 長崎市の栄光教会の事例
- 未来世代にとっての「現在の複合課題」の象徴
- 国内外からの学習旅行の目的地

参考事例：旧陸軍被服支廠（広島）

- 多重の記憶を担う遺構
 - 被爆建物→投下直後は救護所に。建物内で多くの死者も
 - 軍服の製造工場→「軍都」としての広島を表象する遺構
- 解体から保存へ
 - 2019年12月 地震倒壊の恐れから、広島県が3棟中2棟を解体、国も1棟を解体の方針
 - 市内諸団体が保存運動開始
 - 2022年5月 国と広島県が全4棟の保存を決定

【現存する最大級の被爆建物・旧広島陸軍被服支廠倉庫を全棟保存してほしい】



現存する最大級の被爆建物
旧広島陸軍被服支廠倉庫を
全棟保存してほしい

📌 キャンペーン成功！（認証済み）
48,703人の賛同者により、成功へ導かれました！

広島県知事：【現存する最大級の被爆建物・旧広島陸軍被服支廠倉庫を全棟保...

Facebookでシェア

友達にEメールを送信

Twitterでシェア

リンクをコピー

発信者：旧広島陸軍被服支廠倉庫の保存・活用 キャンペーン 宛先：広島県知事（広島県知事）

広島市南区出汐町には、1913年（大正2年）建造の大きな赤レンガ倉庫が4棟残っています。これは1907年（明治40年）から続く旧陸軍被服支廠（ひふくししょう）の一部で、1945年8月6日の原子爆弾投下を経験した被爆建物でもあります。この規模のレンガ造りの建物が残っているのは日本で唯一です。被爆後も学生寮や物流会社の倉庫として活用され、100年以上にわたって広島市街の中にあり続けています。

しかし、耐震強度が不十分であり、維持管理のための財源が確保できないという理由から、4棟のうちの3棟を管理する広島県は、1棟のみを残して残りの2棟を解体する方針をまとめました。また、国が管理する1棟も解体を視野に入れた検討がなされていると報じられています。

遠藤 秀文 (技術士、Apec Engineer)

株式会社ふたば 代表取締役社長
(富岡本社、郡山支社)

- 1971年に福島県双葉郡富岡町に生まれる。大学卒業後に大手建設コンサルタントに入社し、アフリカ、中東、東南アジア、大洋州、中米など約30カ国でODAの開発事業に従事。
- 2008年8月双葉測量設計(株)の専取締役に就任し帰郷。東日本大震災の1ヵ月後に富岡町の本社機能を郡山市に移し、事業再開。
- 2013年12月に社名を株式会社ふたばに変更し、代表取締役社長に就任。福島県内の復興・再生および主に海外島嶼国の防災計画、環境保全などに携っている。2017年8月28日に富岡町に新本社社屋、郡山市に新支社屋を開所。
- 建設コンサルタント⇒社会コンサルタントを目指す。
- **他役職:**一般社団法人とみおかwindメーヌ代表理事、早稲田大学招聘研究員、富岡町商工会理事、富岡町観光協会副会長、富岡国際交流協会副代表、他。



ふたば富岡本社



株式会社ふたばの6つのサービス



(一社) とみおかワインドメニュー 代表理事



これまで



各地に避難する**町民10名有志**が集まって活動開始



太平洋を望む丘の上にブドウ畑を整備
(小浜圃場)



避難解除1年前の2016年3月からブドウの試験栽培を開始

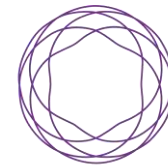


ブドウを植えて4年後の**2019年にワインが完成**
(醸造は外部委託)

これから

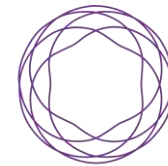
- 東京駅から一本でアクセス可能な**富岡駅前**の**土地(4.5ha)**で本格的に事業展開を開始
- ブドウ畑だけでなく、醸造設備やワイン販売所も併設した**ワイナリーを整備予定**
- 日本で最も海そして駅から近いワイナリーを目指す**





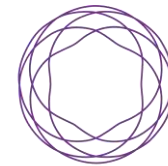
原発被災地域における復興プロセスでの地域社会との関わり

- イノベ構想、廃炉、海洋放出、中間貯蔵、国際教育研究機構等々、決定プロセスに地域住民の関わりが殆ど皆無。関心そして関与が著しく希薄。
- スリーマイルなど海外での先行事例を参考に決定プロセスに地域住民も含まれる諮問委員会等の設立。



地域の歩むべき方向性

- 1Fは事故廃炉で2Fは通常廃炉。確実な廃炉は重要であるが、立地地域の広域連携、まちづくり、基幹産業の創出等の見通しが立っていない。送電、変電、港湾等の既存ストックの有効活用⇒電力産業
- 長期的な廃炉を通じての先進的な遠隔技術、計測・解析技術：どう応用すべきか⇒例えば、3JA（JAEA、JAXA、JAMSTEC）
- マクロ的な視点でのビジョンづくり、理念づくり、国家プロジェクトとしての位置づけや意味づけを明確にし、町村単位でない、地域全体として目指すべき姿を定めることの必要性。

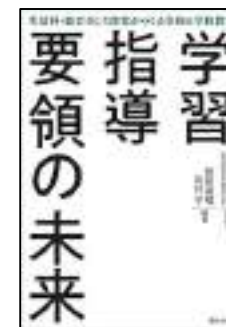


地域の価値を考える

- 廃炉進行中の1Fは後世にどのような形で伝えるべきか。
- 福島の”これまで”と”これから”は“1F”が一丁目一番地。
- 地震・津波・原発事故の多重災害。前例がない唯一無二の地域。
- 広島原爆ドームは残すか賛否が分かれた。結果的に世界遺産登録に大きな存在となり、現在に至り国内外から「平和」のシンボル
- 「福島」の未来志向の“シンボル”、“キーワードは？”
- 地域を俯瞰的に見て、後世に残すべきもの、新たな価値を生み出すものの、再生・創造していくべきものを冷静に検討する時期ではないか
- これらを整理することで、“世界遺産”という価値が見えてくる

南郷 市兵(なんごう いっぺい)

福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校 副校長
元 中央教育審議会教育課程部会専門委員
早稲田大学ふくしま広野未来創造リサーチセンター招聘研究員



2001年慶應義塾大学総合政策学部卒業。
株式会社インターネットイニシアティブ(IIJ)勤務を経て文部科学省入省。

東日本大震災後は、被災三県の自治体との連絡調整を担当。震災を契機とした新たな教育の創造を目指した「創造的復興教育」を推進。福島県双葉郡の教育復興に携わり、ふたば未来学園の開校準備も担当。

2015年4月、福島県立ふたば未来学園高等学校の開校と同時に副校長として着任。同時に中央教育審議会教育課程部会専門委員を務める。

著書に、『学習指導要領の未来』(寄稿、2021年9月、学事出版)、『「アクティブ・ラーニング」を考える』(寄稿、教育課程研究会 編、2016年9月、東洋館出版社)、『希望の教育』(文部科学省創造的復興教育研究会 著、2014年3月、東洋館出版社)等。



早稲田大学「ふくしま学（楽）会」アジェンダの深化

①2018年1月	今、福島から世界へ伝えたいこと(ひと、もの、ことの交流)		今、福島について知りたいこと(原子力災害への対応など)	
②2018年8月 ③2019年1月	今、福島で取り組んでいること(まちづくりと住民参加)	今、福島で悩んでいること(農林水産業の再生と風評問題)	今、福島から考える未来のこと(再生可能エネルギーとスマートタウン)	今、福島について知りたいこと(1F事故処理・廃炉と汚染水問題)
④2019年8月	これまでのふくしま学(楽)会、 これからのふくしま学(楽)会	ふくしま浜通り社会イノベーション・イニシアティブ(SI構想)について	記憶遺産と教訓(1F廃炉の先)	文化育成と発信(地域アート)
⑤2020年1月	記憶遺産と教訓(1F廃炉の先)		文化育成と発信(地域アート)／賑わいと生業(広域DMO)	
⑥2020年8月	ふくしまが知らなければならないこと「廃炉の今と先」		ふくしまから伝えたいこと「アートに載せたメッセージ」	
	ディスカッション： コロナ禍と福島原発事故からの復興(福島の教訓を考える)			
⑦2021年1月	1F廃炉の先と地域社会：「復興と廃炉の両立」を考える		災害の記録と記憶の継承とエコミュージアムを考える	
	ディスカッション： 「3.11」から10年とこれからの福島復興を考える			
⑧2021年7月	1F 廃炉の先と地域社会：廃炉事業を地域社会から考える		創造的復興と災害文化の継承：福島で取り組むべき復興のかたち	
	ディスカッション： 福島の教訓を考える			
⑨2022年1月	1F 廃炉の先とこれからの対話を考える		福島の経験を学び、語り継ぐ枠組みを考える	
	ディスカッション： 福島の学びを若い世代と考える 対話を通じた自分事化のリレー			
⑩2022年7月	福島浜通り地域社会の将来像を考える		1F 廃炉の先を考える	
	ディスカッション：			

2050年の
地域を考える

後世・世界
への
教訓の発信
を考える

2050年の
地域を考える

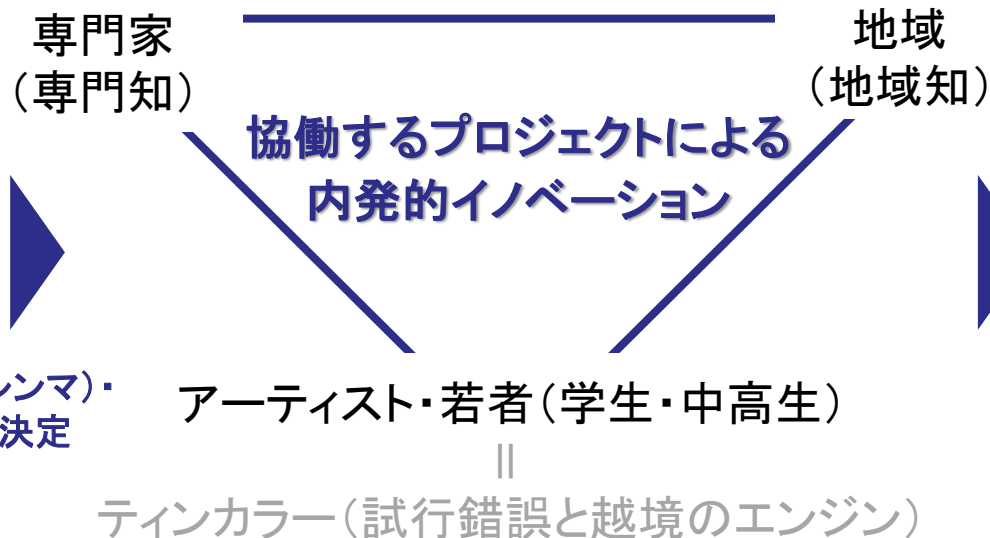
後世・世界
への
教訓の発信
を考える

専門家・地域・高校生が「お互いに顔が見える」協働関係を結んでいる。
半年に毎に専門知と地域知が交換され境界知を編み上げ、創造的な地域を実現する探究の共同体。

VUCAな時代

Volatility 変動性
Uncertainty 不確実性
Complexity 複雑性
Ambiguity 曖昧性

二律背反(トレードオフ)・矛盾(ジレンマ)・
葛藤(コンフリクト)をはらむ意思決定



創造的な地域の実現

ウェルビーイングを
追求する、自立し
持続可能な地域の実現

境界知の創造

専門知を補完する
ポスト・3.11の知の
創造と発信



プロフィール

こいずみ みく

小泉 良空

- 1997年 福島県双葉郡大熊町生まれ
- 2011年 中学2年生で東日本大震災・福島第一原子力発電所事故を経験
- 2019年3月 県内の住宅販売会社に営業職として入社
- 2021年5月 双葉町のまちづくり会社「ふたばプロジェクト」に入社
 - 主に情報発信・伝承事業を担当
 - 復興支援員
- 2022年6月 実家の避難指示解除を迎える



自己紹介

山田美香

出身：岡山県岡山市



ふたば未来学園の生徒たちと：2021年11月撮影

早稲田大学大学院アジア太平洋研究科修了
（学術博士、国際関係学専攻）。

三井造船（株）、曙ブレーキ工業（株）、AKEBONO
EUROPE SASという製造業を経て、

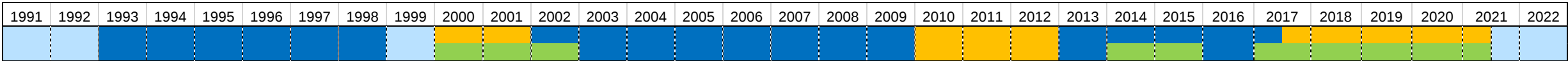
現在、早稲田大学環境総合研究センター、早稲田大学
ふくしま広野未来創造リサーチセンター・次席研究員として
福島県立ふたば未来学園（中高一貫校）に常駐。

2021年7月より、福島県**双葉郡内シェアハウス暮らし。**

風に吹かれて、心のままに…

これまでを振り返ると、

凡例: ■ 就学 ■ 仏勤務 ■ 日本勤務 ■ 不就業



- ・義務教育を含めると**人生の半分 = “学生” (27.5年！)**
- ➡ 可能としたのは、**充実したフランスの社会保障システム**による（就業期間21年の内6/7は仏勤務 [日本は=3年]）
- ➡ 自己主張する社会でもまれ**“わたしの”** という意識（**意見・考え、人生、権利など**）の目覚め
- ➡ “知りたい”という好奇心の追い風で、**双葉郡にたどり着く**

問題意識：わたしの暮らし、わたしたちの社会

「…制度やしくみを変えてみたところが、その制度しくみを運用すべき人間そのもの、**国家社会を組織している個人そのもの**が変わって来ぬ以上、根本的の改革できるものではない…」

（河上肇 『貧乏物語』 p.141）